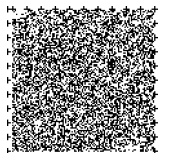


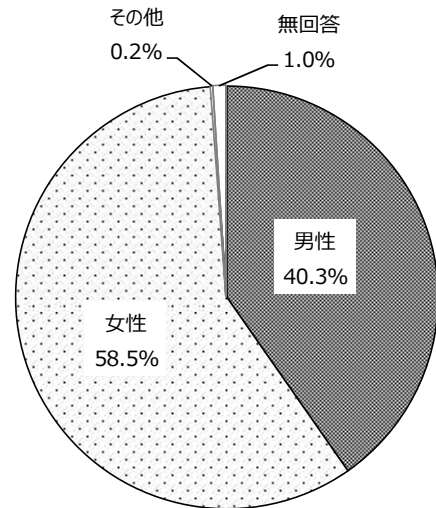
第2章 調査結果の詳細



基本属性

(1) 性別

	基数	構成比
全体	1,149	100.0%
男性	463	40.3
女性	672	58.5
その他	2	0.2
無回答	12	1.0



(参考) 藤沢市の人口 (平成30年10月1日現在)

	人数	構成比
全体	431,286	100.0%
男性	213,192	49.4
女性	218,094	50.6

(2) 年齢

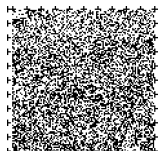
	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
18～19歳	12	1.0	6	1.3	6	0.9
20～24歳	30	2.6	9	1.9	21	3.1
25～29歳	49	4.3	19	4.1	29	4.3
30～34歳	64	5.6	21	4.5	42	6.3
35～39歳	75	6.5	27	5.8	48	7.1
40～44歳	85	7.4	28	6.0	57	8.5
45～49歳	102	8.9	45	9.7	57	8.5
50～54歳	103	9.0	35	7.6	68	10.1
55～59歳	95	8.3	43	9.3	52	7.7
60～64歳	95	8.3	40	8.6	55	8.2
65～69歳	121	10.5	48	10.4	73	10.9
70～74歳	122	10.6	54	11.7	66	9.8
75～79歳	90	7.8	35	7.6	53	7.9
80歳以上	96	8.4	52	11.2	43	6.4

(3) 結婚の有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
既婚 (事実婚を含む)	842	73.3	348	75.2	491	73.1
未婚	163	14.2	75	16.2	85	12.6
離婚または死別	133	11.6	37	8.0	94	14.0

(4) 配偶者・パートナーの就労状況と雇用状態

就労状況	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	842	100.0%	348	100.0%	491	100.0%
働いている	493	58.6	155	44.5	338	68.8
働いていない	324	38.5	186	53.4	135	27.5



雇用状態

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	493	100.0%	155	100.0%	338	100.0%
正規雇用	302	61.3	50	32.3	252	74.6
非正規雇用	125	25.4	89	57.4	36	10.7
自営業	64	13.0	15	9.7	49	14.5

(5) 子どもの有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
同居している子どもがいる	547	47.6	199	43.0	344	51.2
子どもはいるが同居していない	291	25.3	135	29.2	154	22.9
子どもはいない	265	23.1	109	23.5	153	22.8

(6) 一番下の子どもの年齢区分

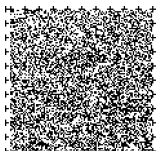
	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	547	100.0%	199	100.0%	344	100.0%
就学前	111	20.3	37	18.6	74	21.5
小学生	71	13.0	22	11.1	49	14.2
中学生	34	6.2	12	6.0	22	6.4
中学卒業以上で未成年	57	10.4	27	13.6	30	8.7
成人	268	49.0	99	49.7	165	48.0

(7) 介護が必要な同居家族の有無

	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
介護が必要な家族と同居している	93	8.1	42	9.1	50	7.4
介護が必要な家族がいるが同居していない	115	10.0	51	11.0	63	9.4
いない	862	75.0	337	72.8	518	77.1

(8) 同居の家族構成

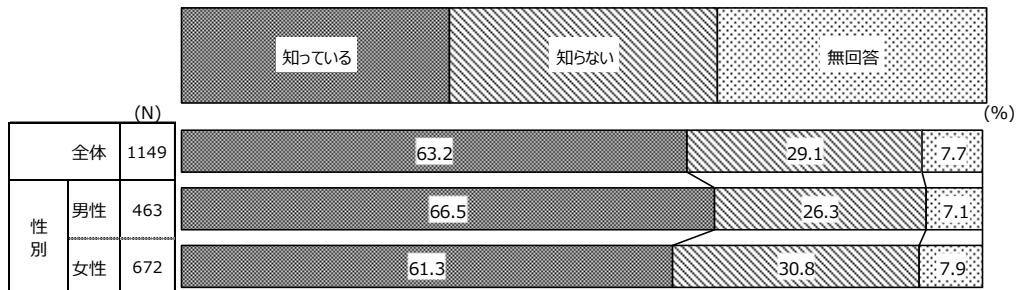
	全体		男性		女性	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
全体	1,149	100.0%	463	100.0%	672	100.0%
ひとり暮らし	125	10.9	61	13.2	62	9.2
配偶者・パートナーのみ（事実婚含む）	323	28.1	146	31.5	176	26.2
親と子ども（核家族世帯）	493	42.9	165	35.6	324	48.2
親と子どもと配偶者・パートナー（二世帯世帯）	77	6.7	33	7.1	44	6.5
親、子ども、配偶者・パートナーと孫（三世帯世帯）	46	4.0	23	5.0	22	3.3
その他	45	3.9	22	4.8	22	3.3



A 男女の平等について

(1) 男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

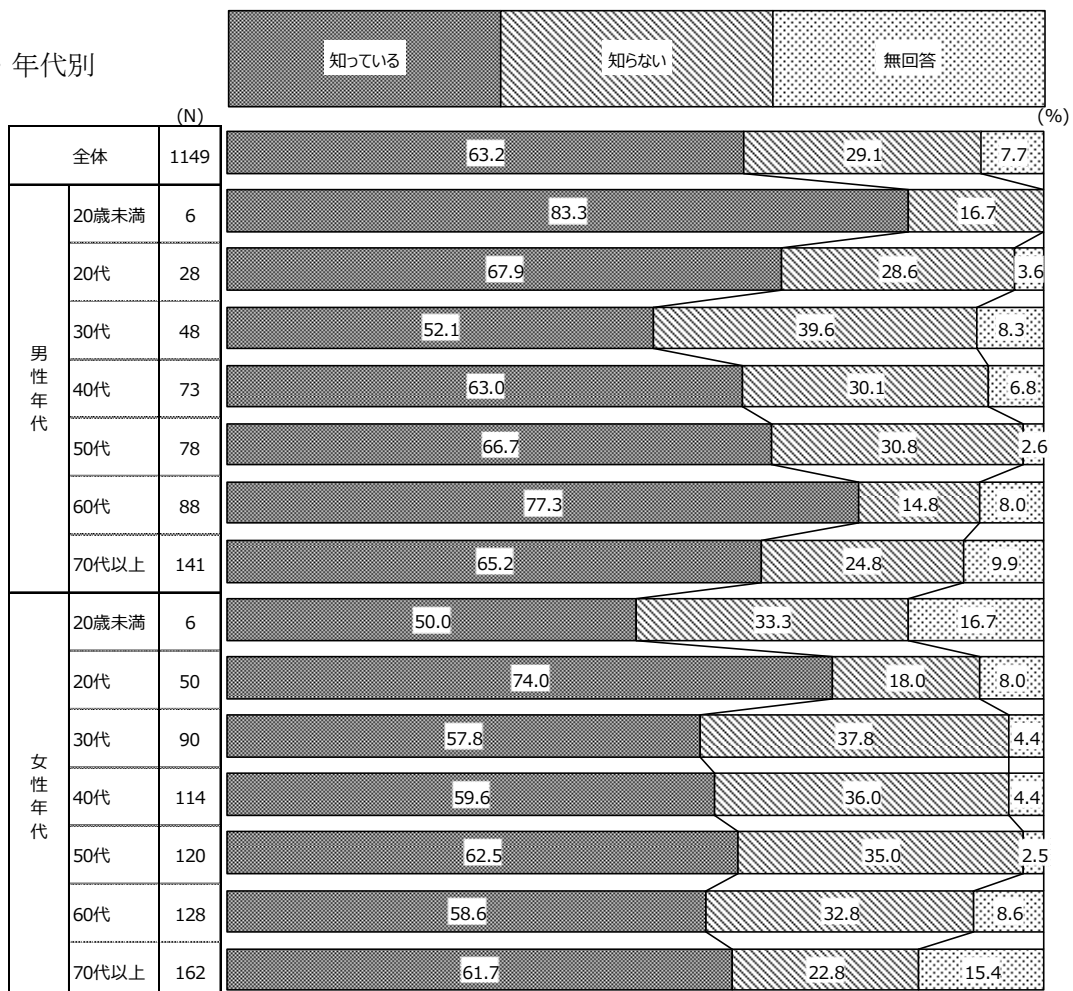
Q1 あなたは、男女共同参画（社会）という言葉を知っていますか。（〇は1つ）



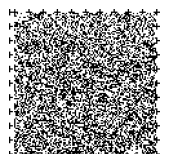
男女共同参画（社会）という言葉について、全体では「知っている」63.2%、「知らない」29.1%で、「知っている」が34.1ポイント高くなっている。

性別では、「知っている」は男性66.5%で、女性（61.3%）をやや上回っている。

■性別・年代別

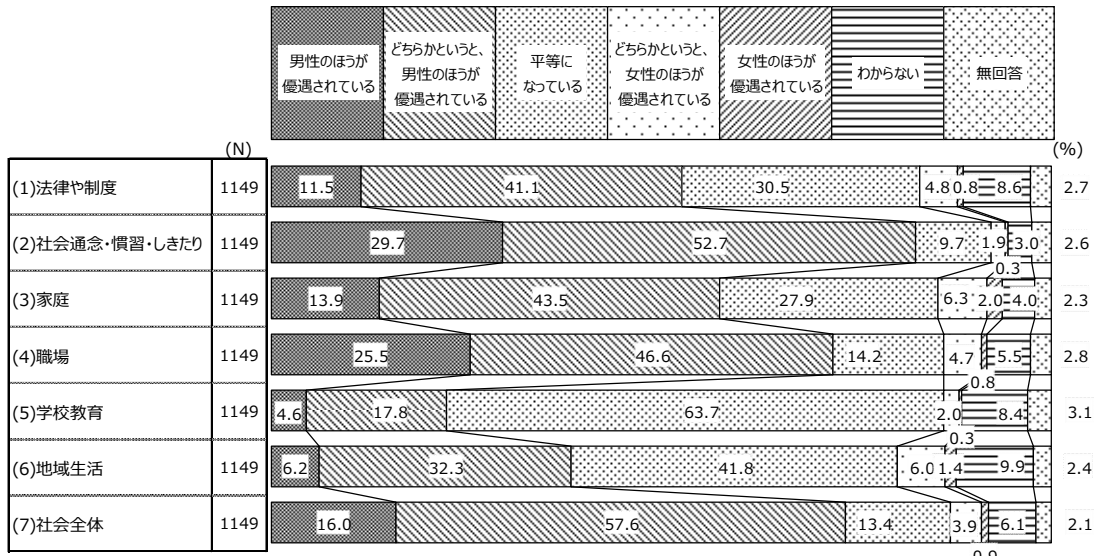


性別・年代別で見ると、「知っている」は男性60代と女性20代で77.3%、74.0%と特に高くなっている。



(2) 各分野における男女の地位・立場について

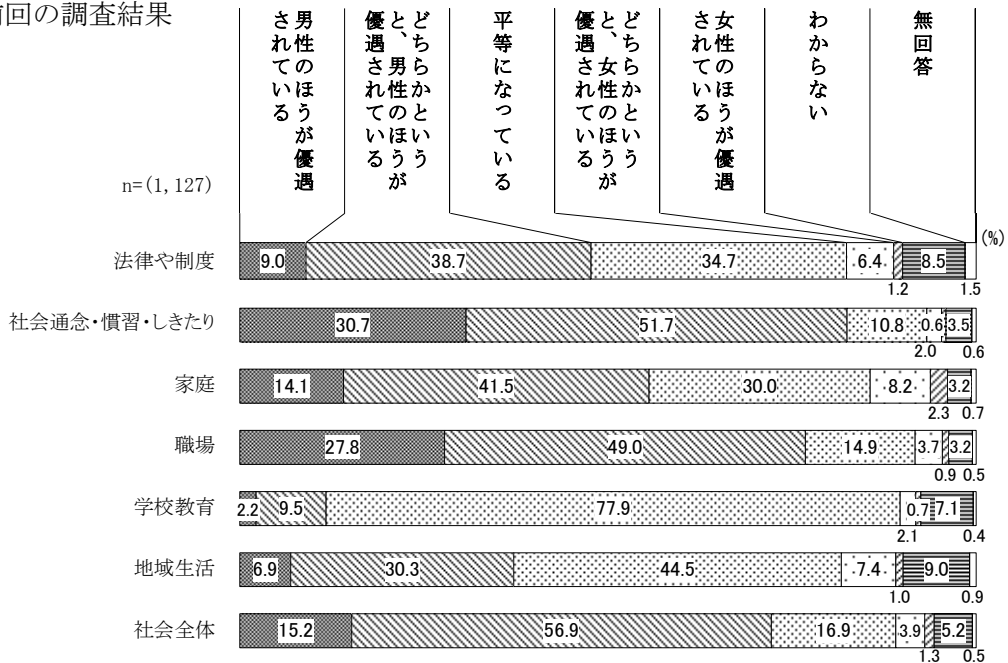
Q2 あなたは、次の各分野において、男女の地位や立場はどのようになっていると思いますか。((1) ~ (7) の各項目につき〇は1つ)



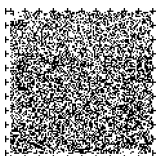
各分野における男女の地位の平等感を全体で見ると、「平等になっている」は『学校教育』が63.7%でもっとも高く、これに『地域生活』(41.8%)、『法律や制度』(30.5%)、『家庭』(27.9%)が続く。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかという、男性のほうが優遇されている」の合計では、『社会通念・慣習・しきたり』で82.4%、『社会全体』で73.6%、『職場』で72.1%と高くなっている。

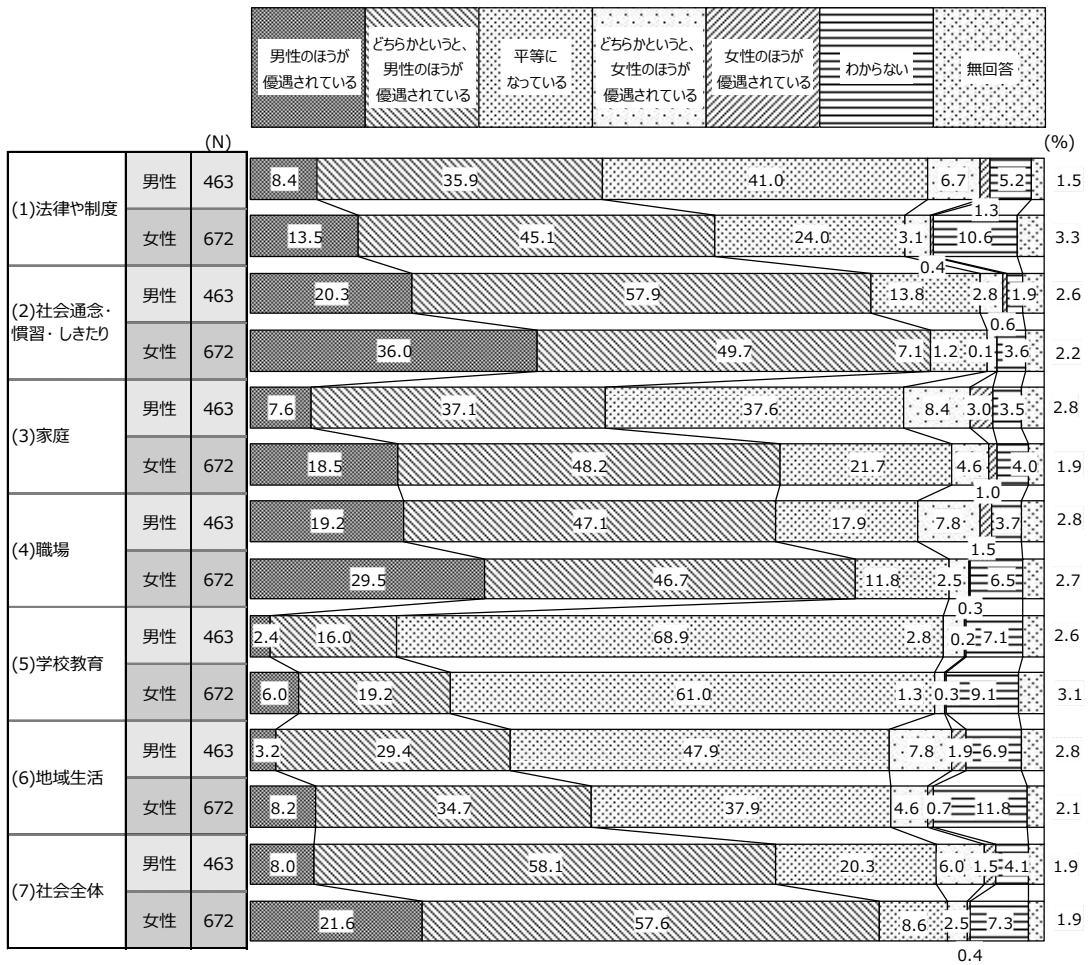
【参考】前回の調査結果



前回調査と比較すると、いずれの項目も「平等になっている」が減少しており、特に『学校教育』については14.2ポイント減少している。

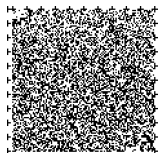


■性別



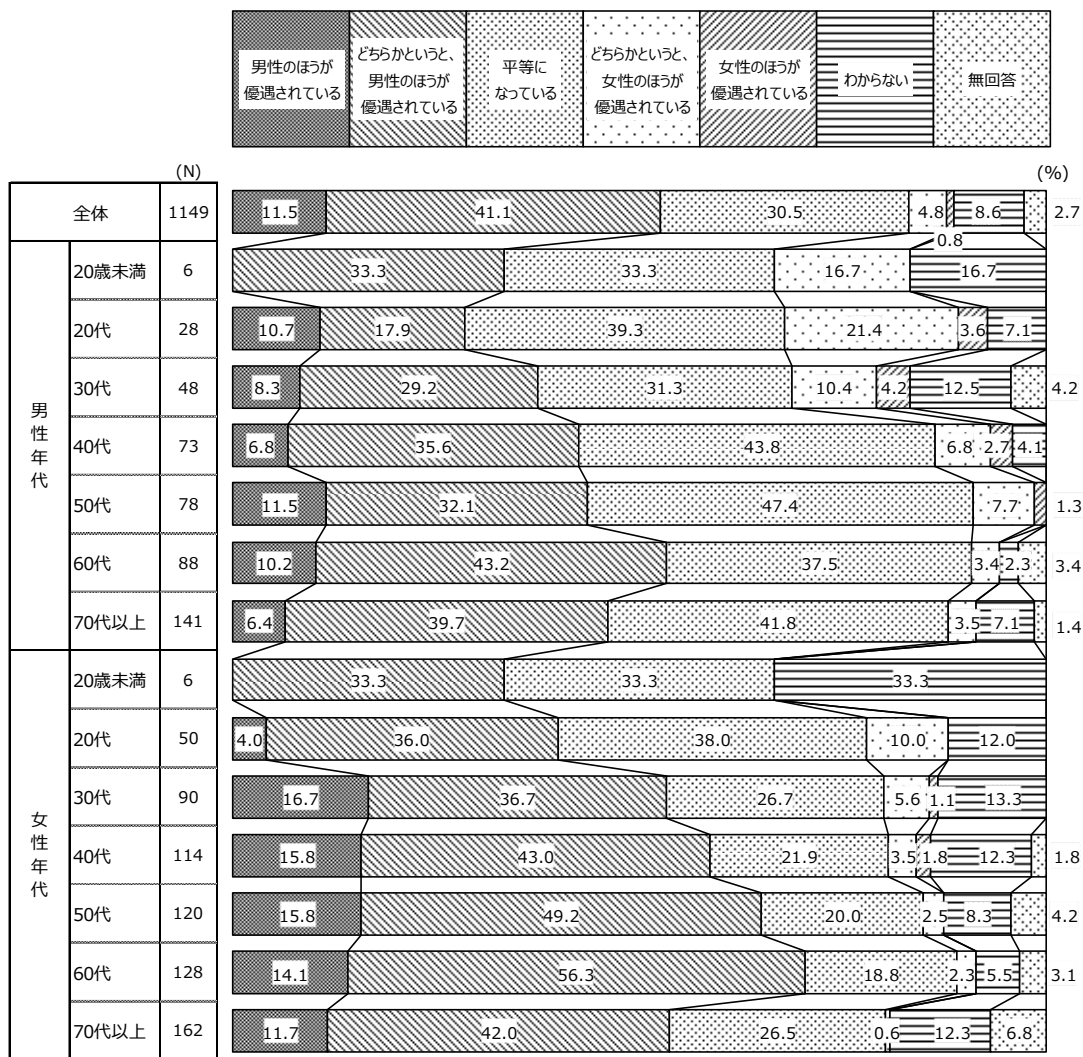
性別で「平等になっている」の割合をみると、どの分野でも男性が女性を上回っており、その差は『法律や制度』で17.0ポイント、『家庭』で15.9ポイントと大きい。

「男性のほうが優遇されている」と「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」の合計である、「男性優遇（計）」は、どの分野でも女性が男性を上回っており、その差は『家庭』で22.0ポイント、『法律や制度』で14.3ポイントと大きい。

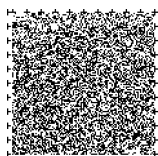


■性別・年代別

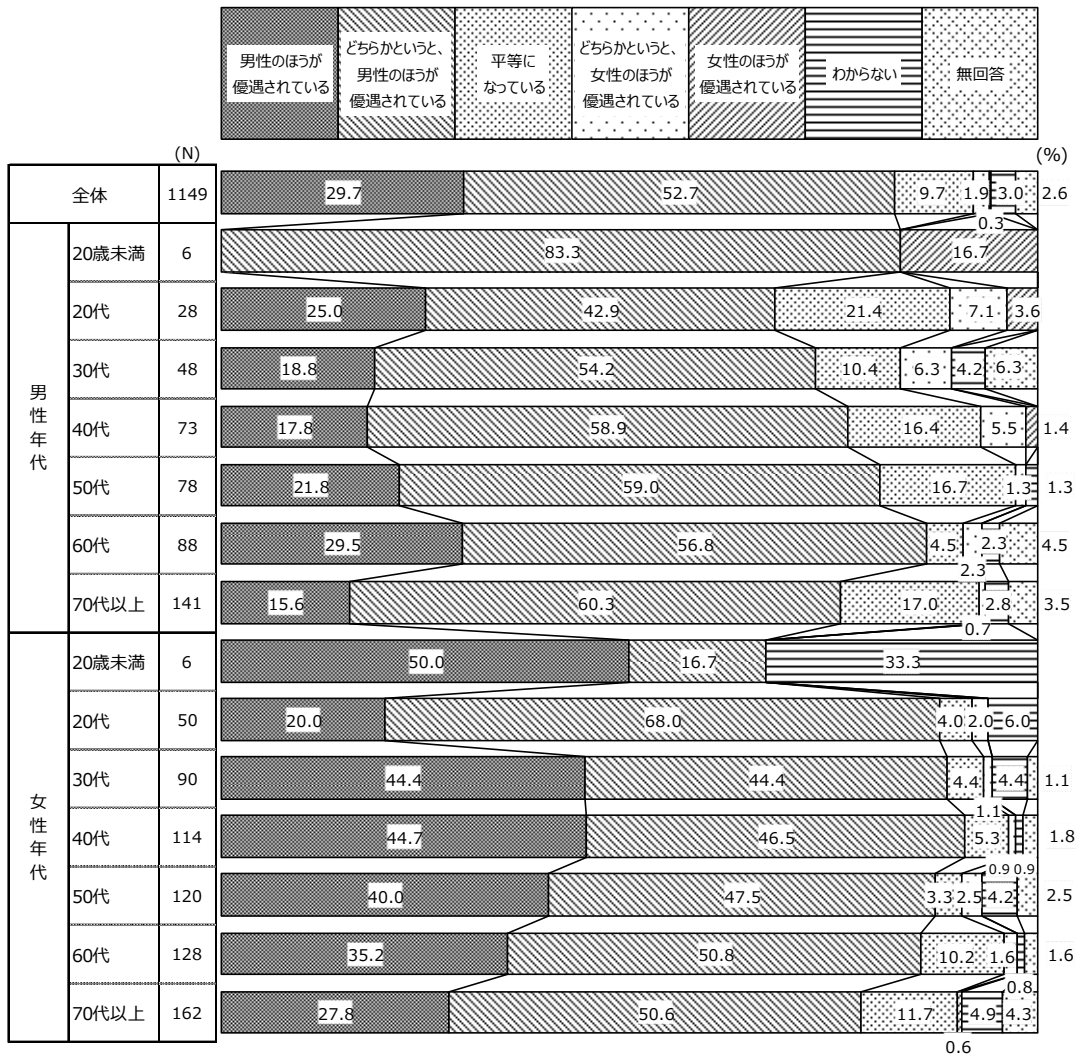
A(2)-(1)法律や制度



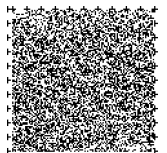
『法律や制度』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、男女とも概ね高年層ほど高く、特に女性50代・60代で65.0%、70.4%と高くなっている。「平等になっている」は男性40代・50代で43.8%、47.4%と高くなっている。



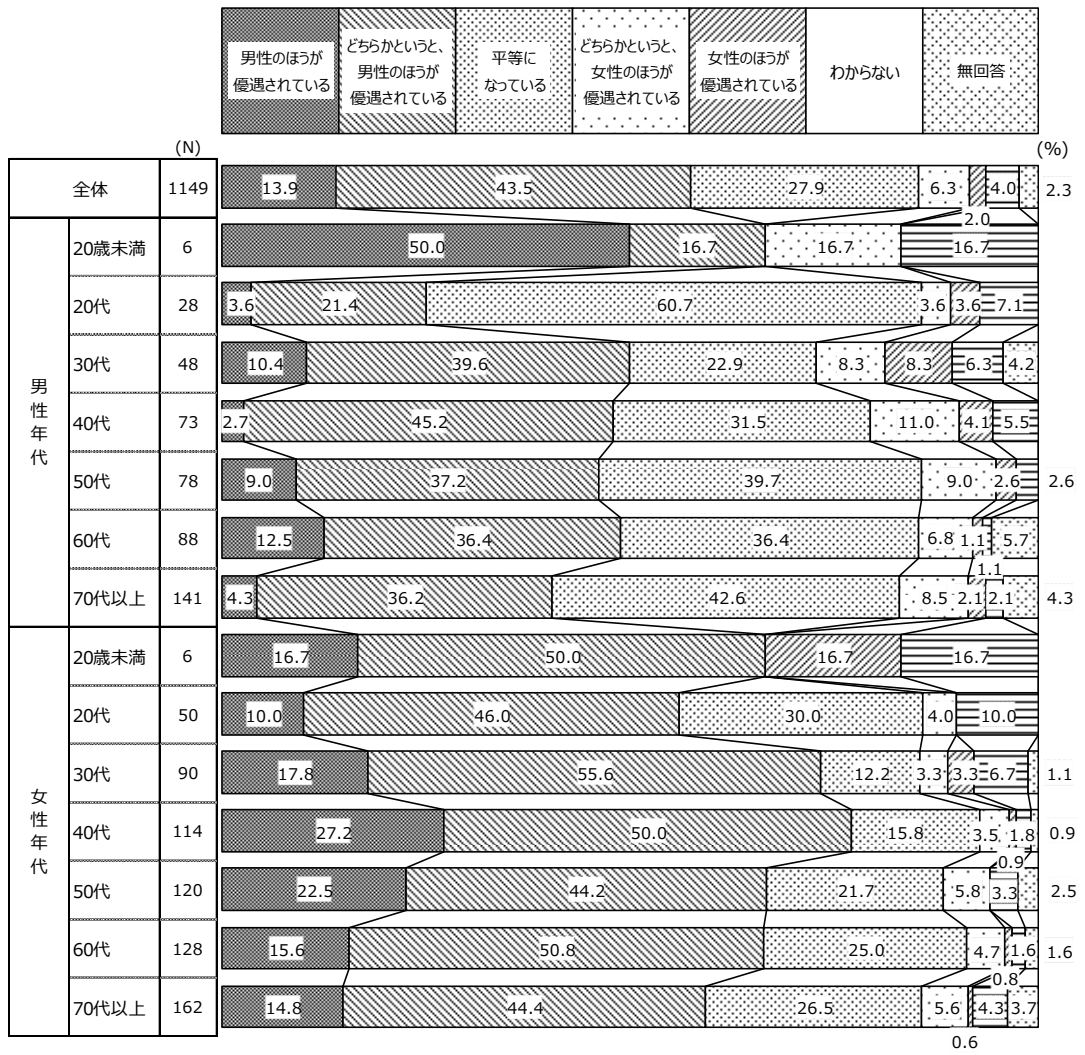
A (2)-(2) 社会通念・慣習・しきたり



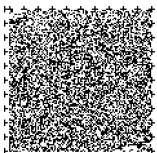
『社会通念・慣習・しきたり』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高く、男性では50代・60代で8割を超えているのに比べ、女性は20代から60代までが8割を超え、特に40代は91.2%と特に高くなっている。



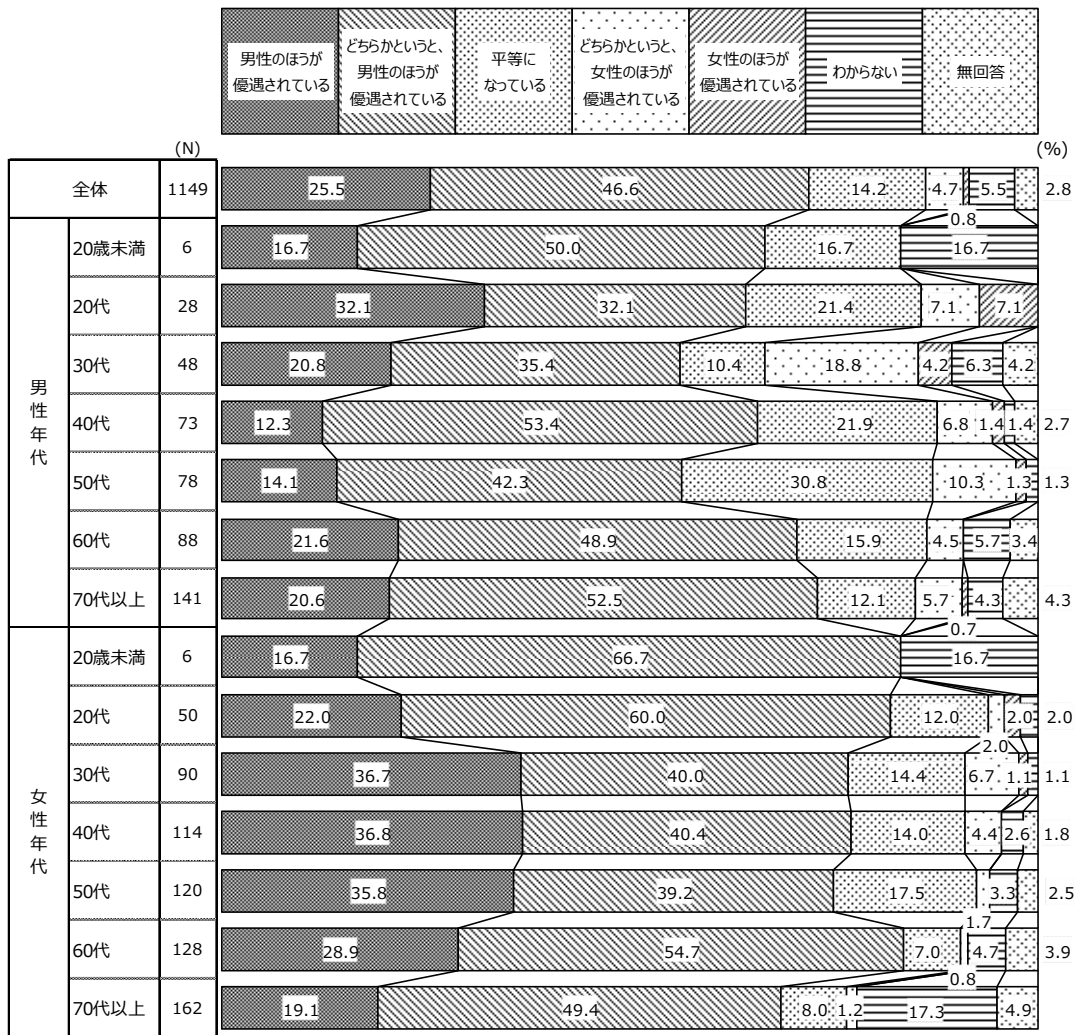
A (2)-(3) 家庭



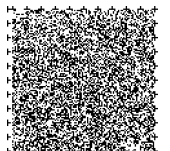
『家庭』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」が女性30代・40代で73.4%、77.2%と高くなっている。これに対し、男性20代・70代以上は「平等になっている」が60.7%、42.6%と高くなっている。



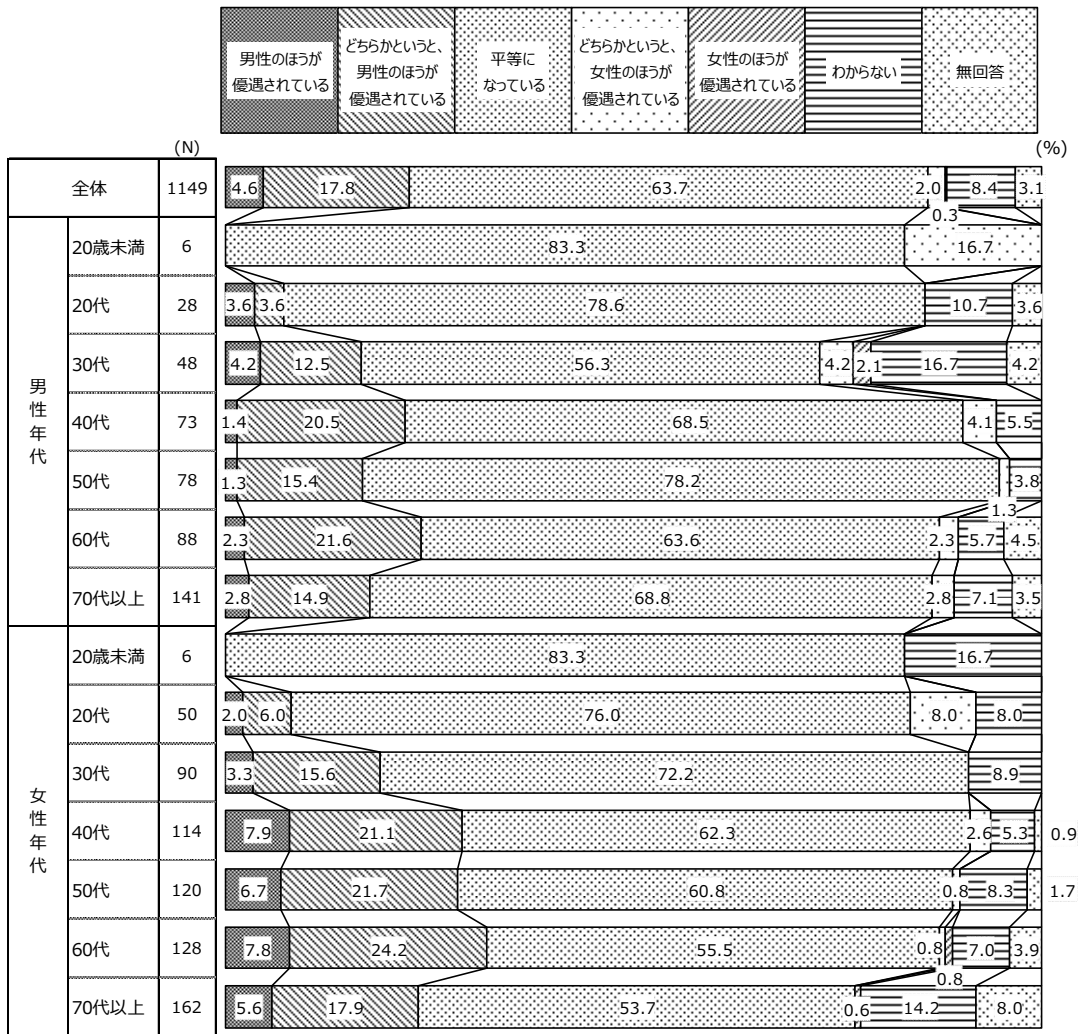
A (2)-(4) 職場



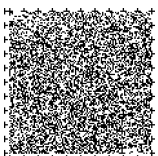
『職場』を性別・年代別で見ると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、特に女性20代・60代で82.0%、83.6%にのぼる。これに対し、「平等になっている」は男性50代で30.8%と高くなっている。



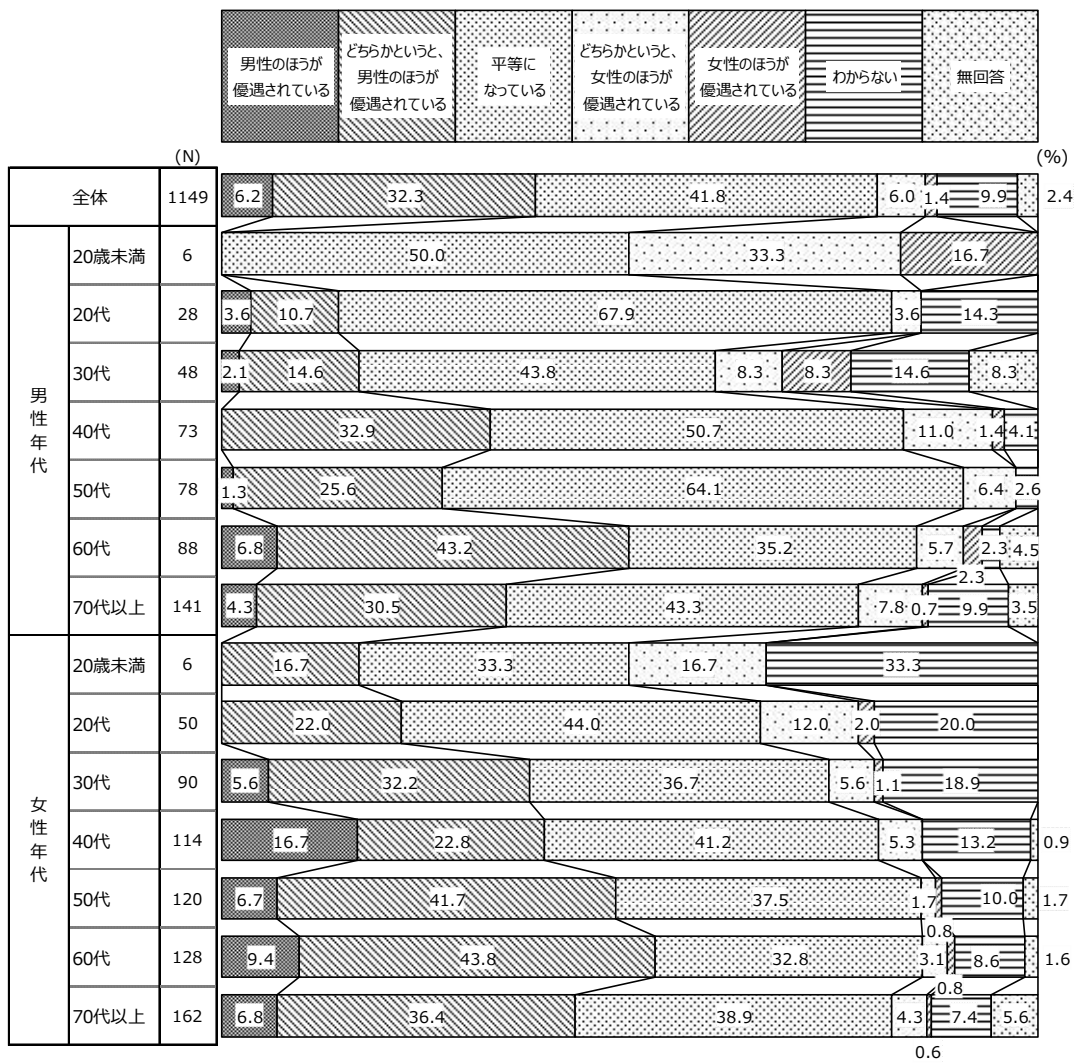
A (2)-(5) 学校教育



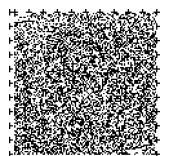
『学校教育』を性別・年代別で見ると、「平等になっている」は性別を問わず全ての年代で5割以上と高い割合となっており、特に男性20代・50代では78.6%、78.2%を占めている。



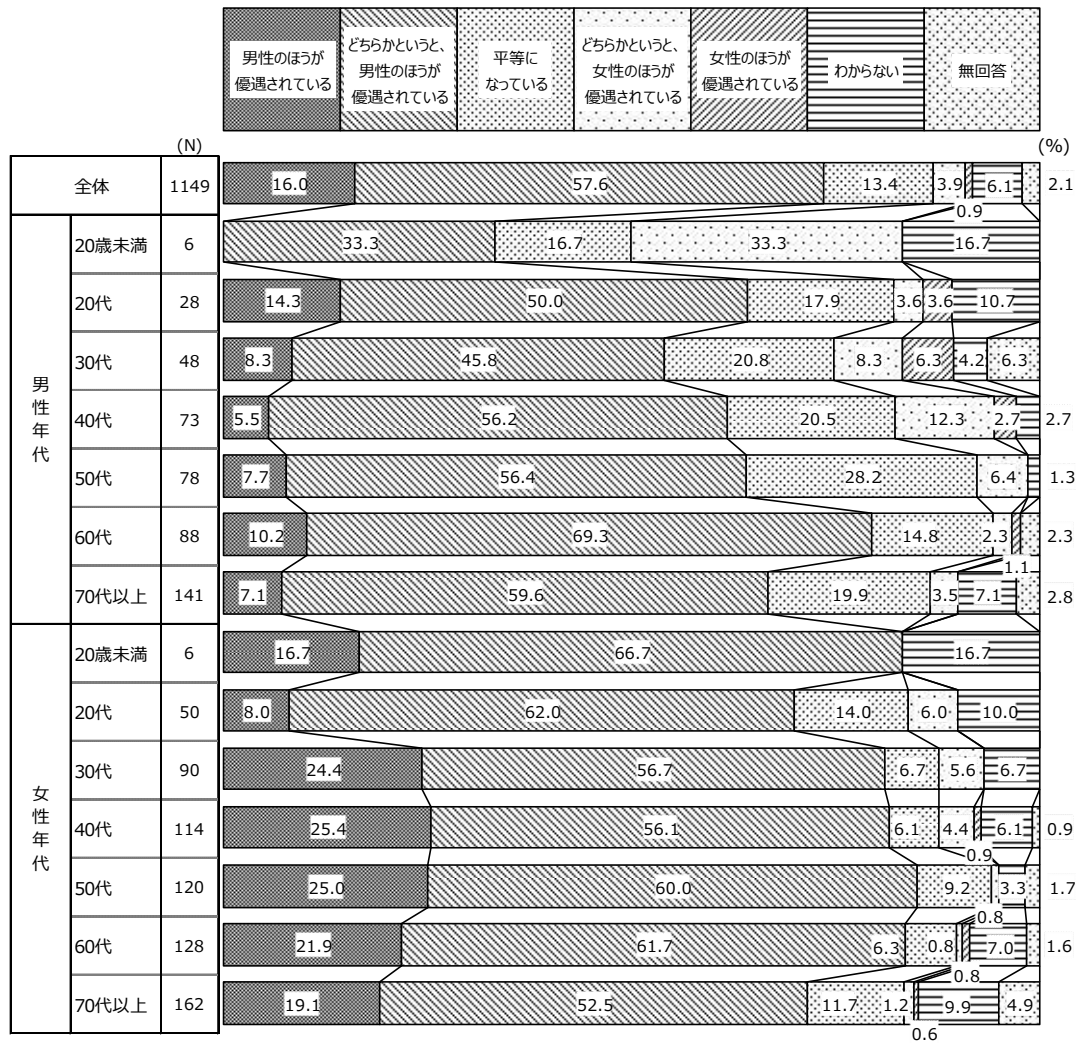
A (2)-(6) 地域生活



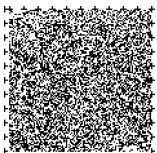
『地域生活』を性別・年代別で見ると、「平等になっている」は男性20代・50代で67.9%、64.1%と高くなっている。これに対し、「男性優遇（計）」は、男性60代、女性50代・60代で48.4～53.2%と高くなっている。



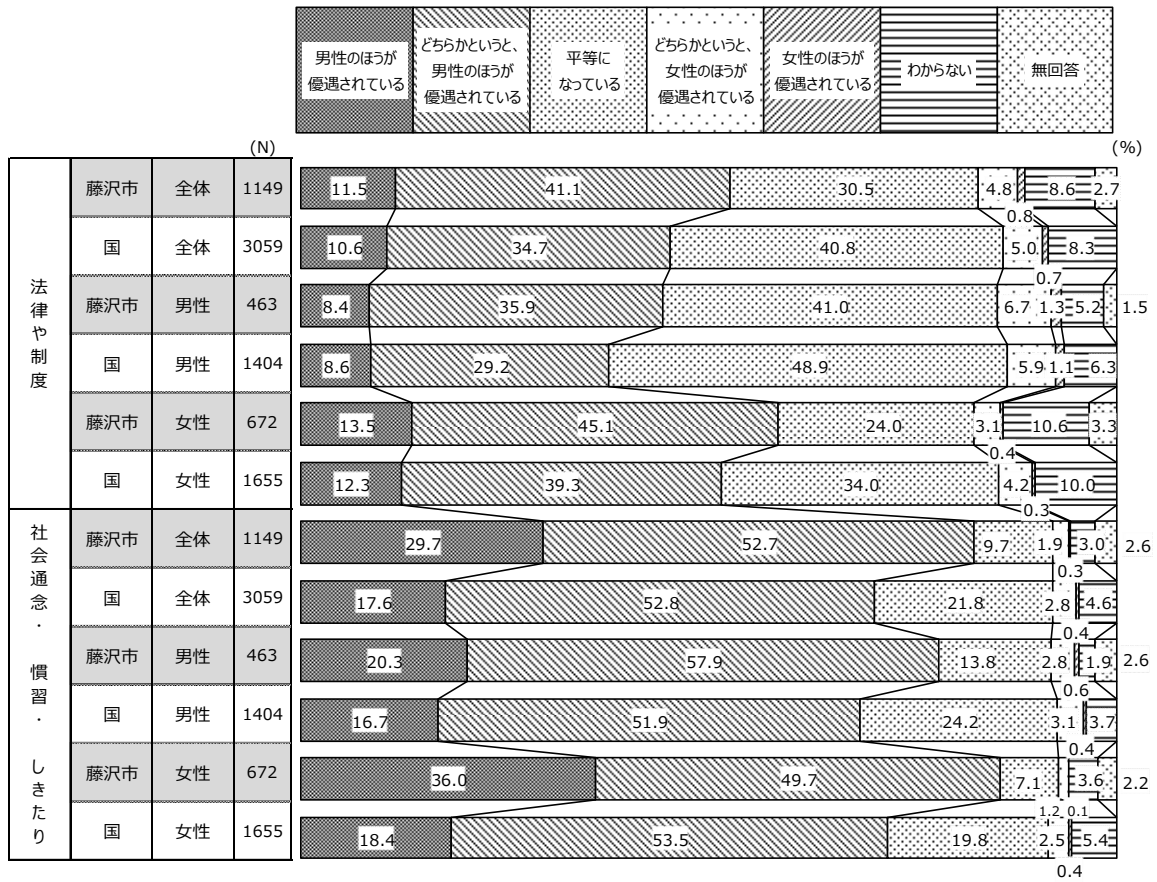
A (2)-(7) 社会全体



『社会全体』を性別・年代別でみると、「男性優遇（計）」は、性別を問わず全ての年代で高い割合となっており、男性は60代で79.5%、女性は30代～60代で81.1～85.0%に達している。



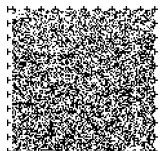
●国との比較(2)-(1), (2)



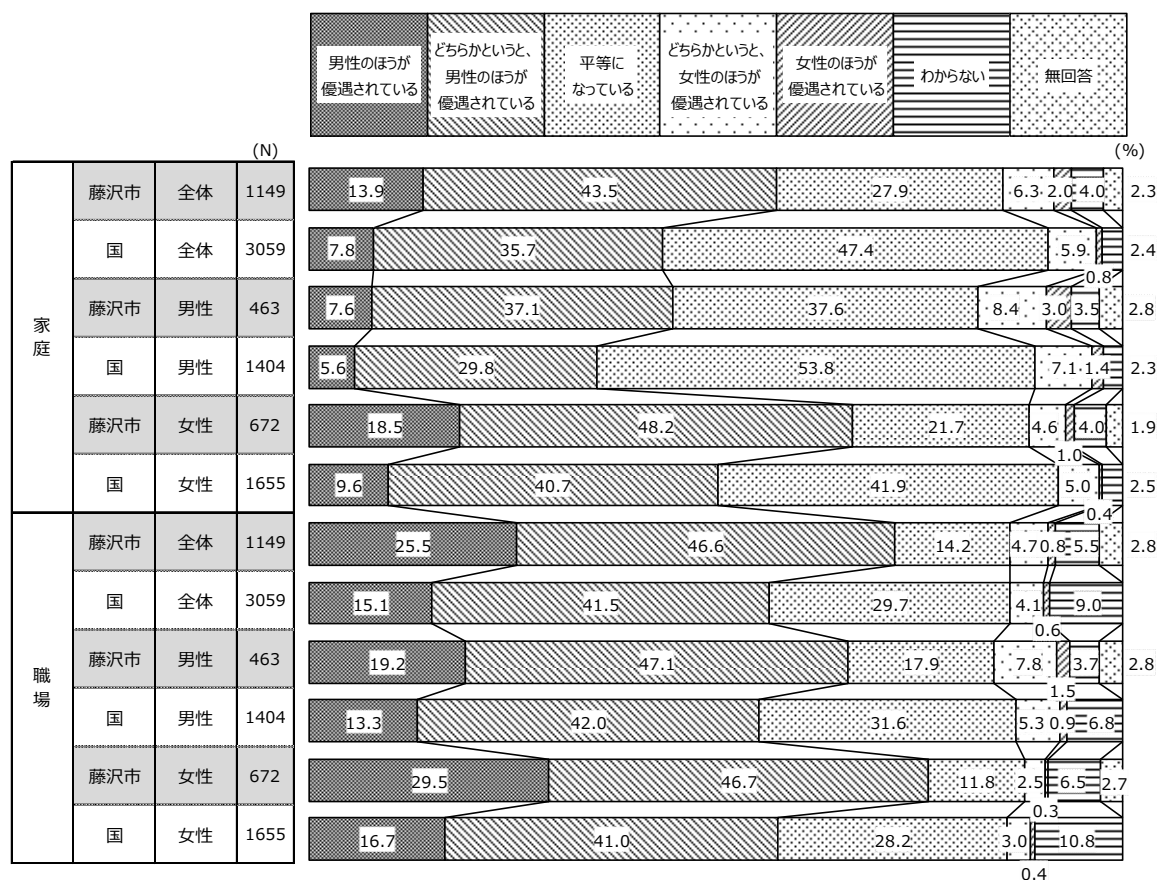
『法律や制度』を国の調査と比較すると、「男性優遇（計）」は、藤沢市52.6%、国の調査45.3%で藤沢市が7.3ポイント上回り、「平等になっている」は藤沢市30.5%、国の調査40.8%で、藤沢市が10.3ポイント下回っている。

性別でも同様の傾向があり、「平等になっている」の割合は男性・女性とも藤沢市が国の調査を7.9ポイント、10.0ポイント下回っている。

『社会通念・慣習・しきたり』は、「男性優遇（計）」が藤沢市82.4%、国の調査70.4%で、藤沢市が12.0ポイント上回っている。性別でも男性は9.6ポイント、女性は13.8ポイント国の調査を上回っている。



●国との比較(2)-(3), (4)

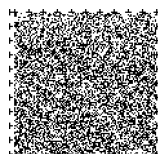


『家庭』についての「平等になっている」は藤沢市27.9%、国の調査47.4%で、藤沢市が19.5ポイント下回っている。国の調査では「平等になっている」、「男性優遇（計）」が拮抗しているのに対し、藤沢市では「男性優遇（計）」が上回る結果となっている。

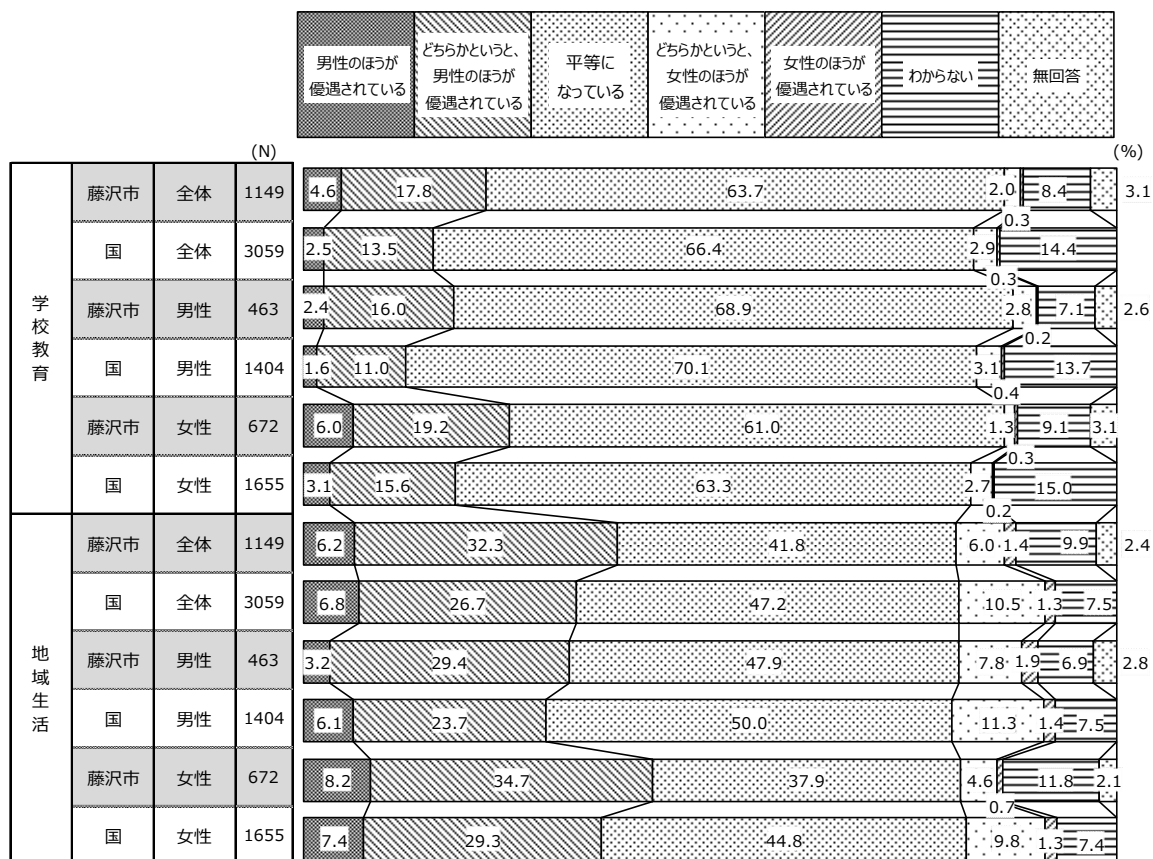
性別でも「平等になっている」は男性で16.2ポイント、女性で20.2ポイント藤沢市が国の調査を下回っている。

『職場』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市72.1%、国の調査56.6%で、藤沢市の方が15.5ポイント高い。

性別でも「男性優遇（計）」は、男性で11.0ポイント、女性で18.5ポイント国の調査より高くなっている。



●国との比較(2)-(5), (6)

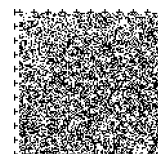


『学校教育』についての「平等になっている」は藤沢市63.7%、国の調査66.4%で、藤沢市が2.7ポイント下回っている。

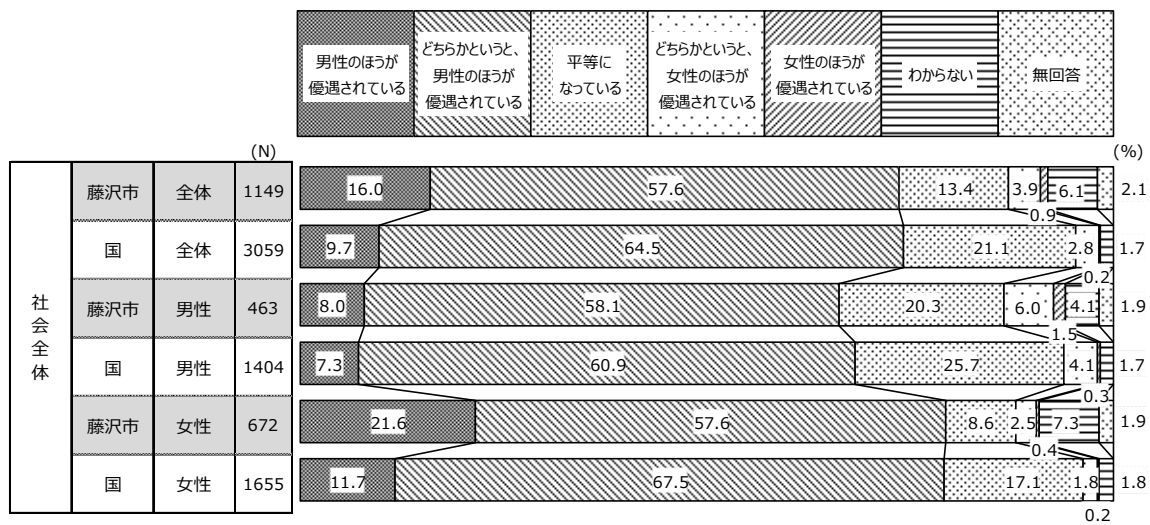
性別でも「平等になっている」が男性で1.2ポイント、女性で2.3ポイント国の調査を下回っている。

『地域生活』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市38.5%、国の調査33.5%で、藤沢市の方が5.0ポイント高い。

性別でも男性で2.8ポイント、女性で6.2ポイント国の調査より高くなっている。

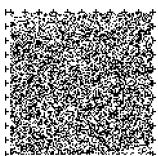


●国との比較(2)-(7)



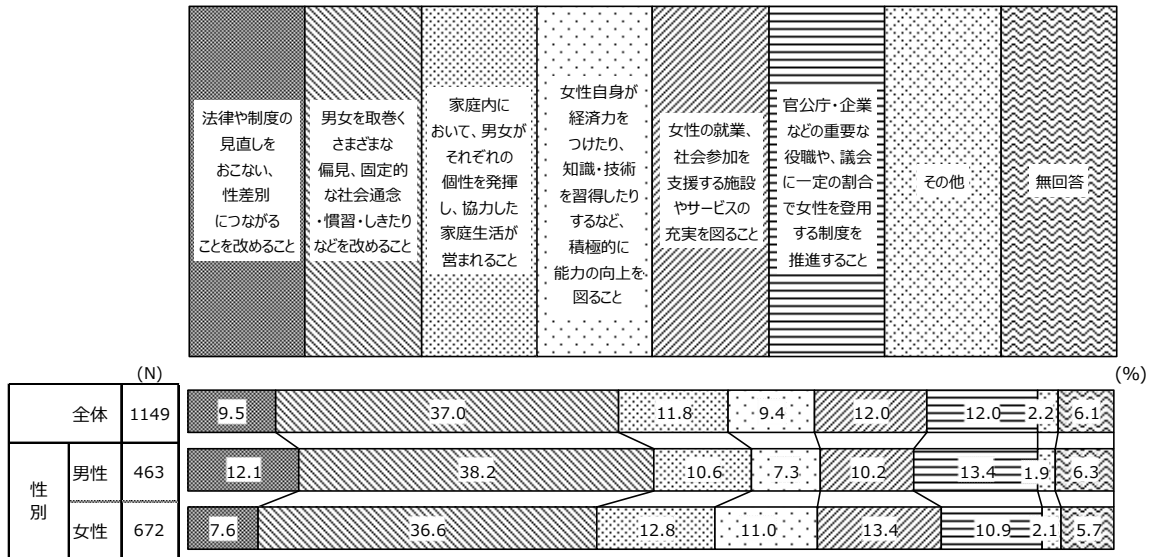
『社会全体』についての「男性優遇（計）」は、藤沢市73.6%、国の調査74.2%で同程度なのに対し、「平等になっている」は藤沢市が7.7ポイント下回っている。

性別でも「平等になっている」が男性で5.4ポイント、女性で8.5ポイント国の調査を下回っている。



(3) 今後男女があらゆる分野で平等になるためにもっとも重要と思うこと

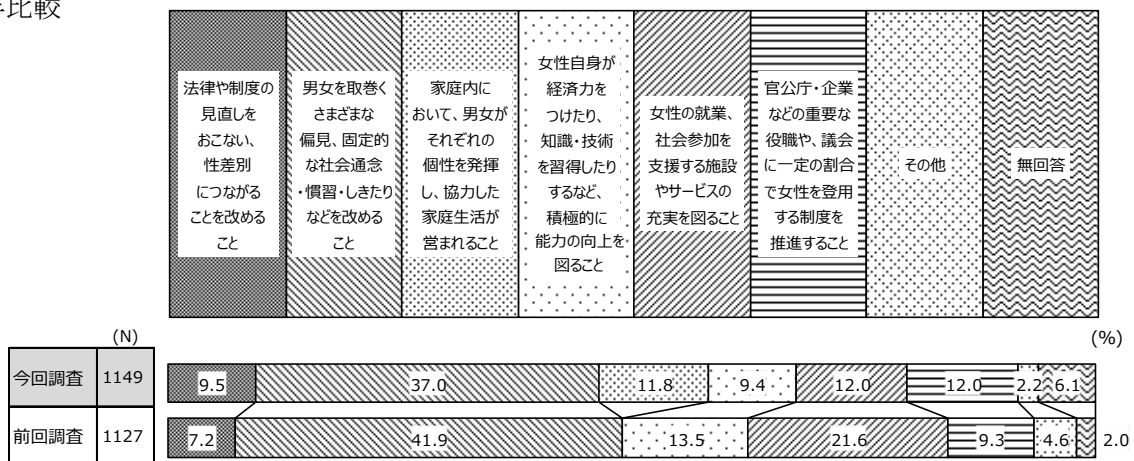
Q3 あなたが、今後男女があらゆる分野でより平等になるために、もっとも重要と思うことは何でしょうか。(〇は1つ)



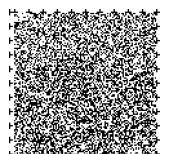
今後男女があらゆる分野でより平等になるためにもっとも重要と思うことは、全体では、「男女を取巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が37.0%と特に高く、その他の項目はいずれも1割前後となっている。

性別でみると、男女とも「男女を取巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」がもっとも高く、男性38.2%、女性36.6%となっている。

◎経年比較



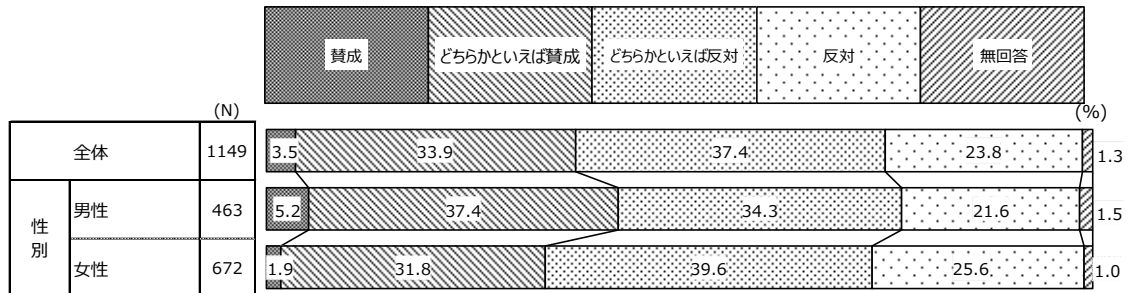
前回調査と比較すると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が9.6ポイント低下している。一方で、新規項目である「家庭内において、男女がそれぞれの個性を發揮し、協力した家庭生活が営まれること」が11.8%となっている。



B 家庭生活について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

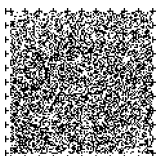
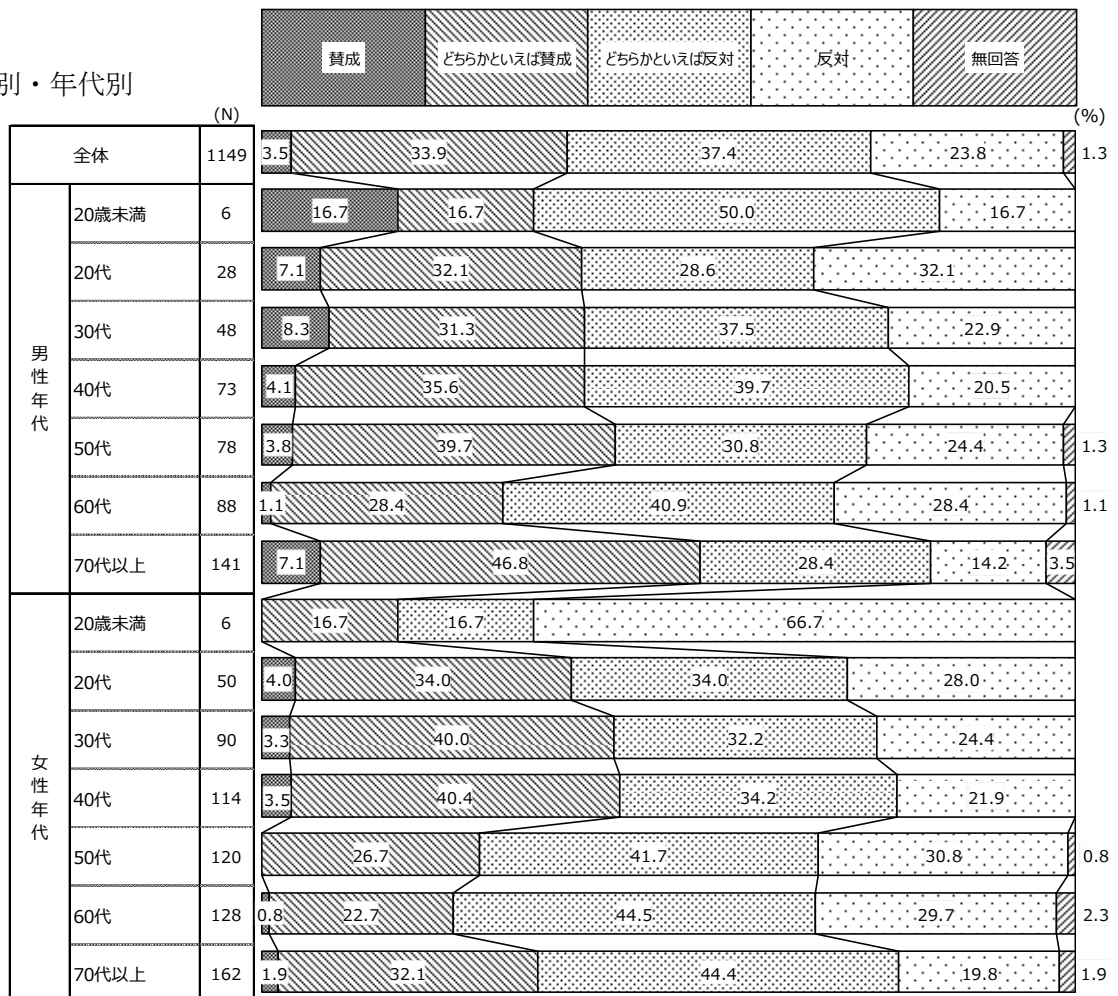
Q4 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてあなたはどのようにお考えになりますか。
(○は1つ)



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が61.2%で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計（37.4%）を23.8ポイント上回っている。

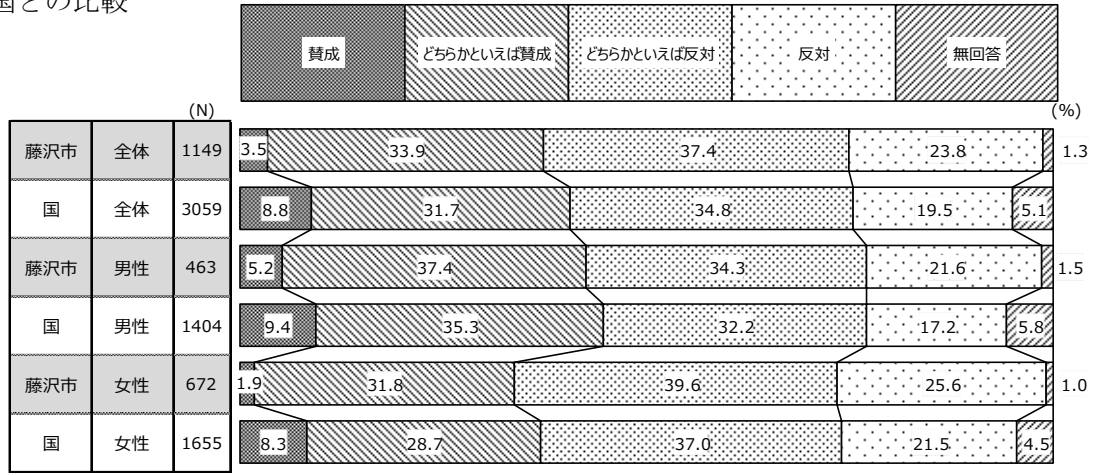
性別でみると、女性は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が65.2%と男性より9.3ポイント高く、男性は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が42.6%と女性より8.9ポイント高くなっている。

■性別・年代別



性別・年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は、男性70歳以上で53.9%と特に高い。一方、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計は、男性60代、女性50代・60代で69.3～74.2%と高くなっている。

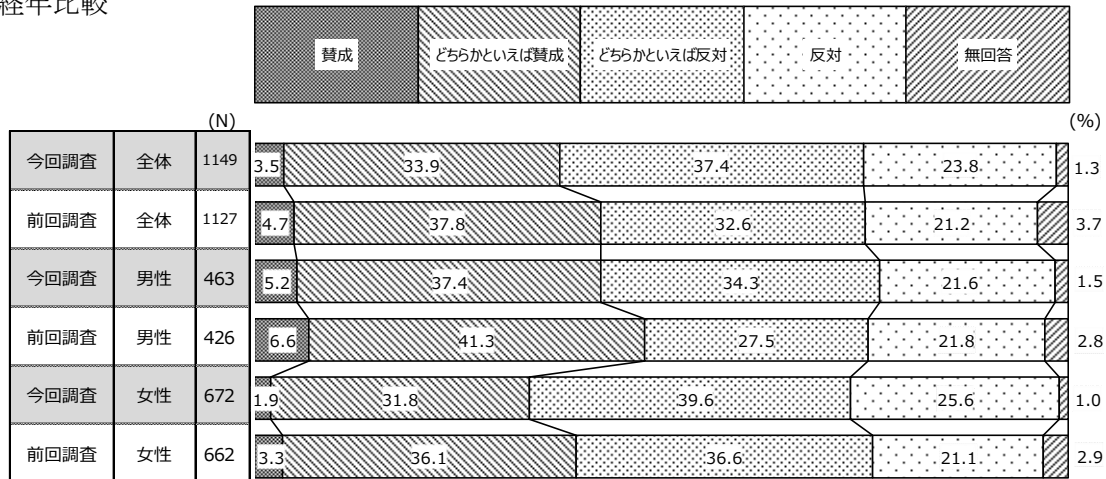
●国との比較



「男は仕事、女は家庭」という考え方について国の調査と比較すると、藤沢市に比べて全体、性別ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が高く、「反対」「どちらかと言えば反対」の割合は藤沢市の方が高くなっている。「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は全体で藤沢市が3.1ポイント低く、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計は6.9ポイント高い。

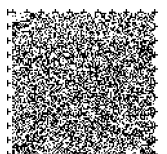
性別でみると藤沢市では、「反対」または「どちらかと言えば反対」である女性が6.7ポイント、男性が6.5ポイント国の調査に比べて高くなっている。

◎経年比較



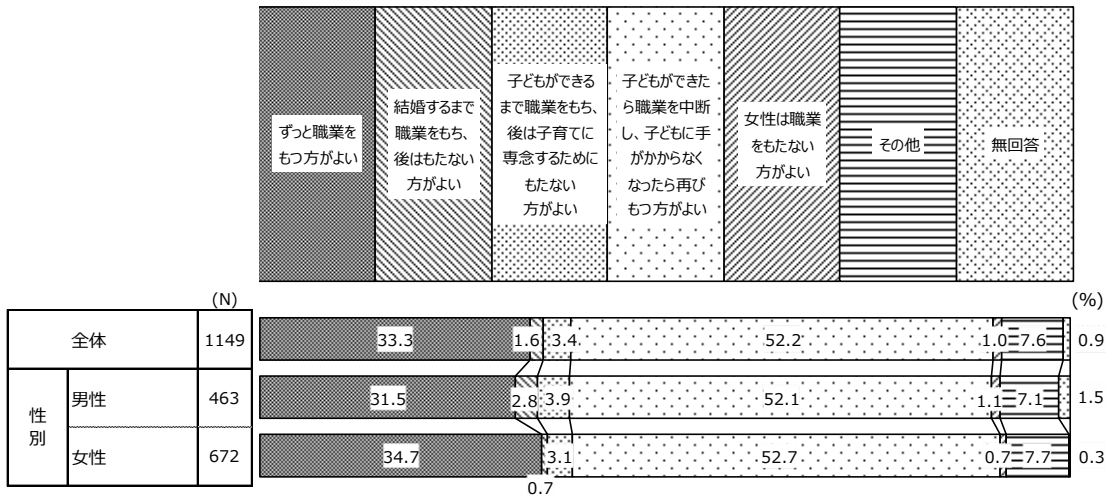
前回調査と比較すると、全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が5.1ポイント減少し、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が7.4ポイント増加している。

性別でみると、「反対」「どちらかと言えば反対」である男性が6.6ポイント、女性が7.5ポイント増加している。



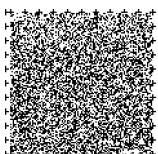
(2) 「女性が職業をもつこと」についての考え

Q5 「女性が職業をもつこと」について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。
(〇は1つ)

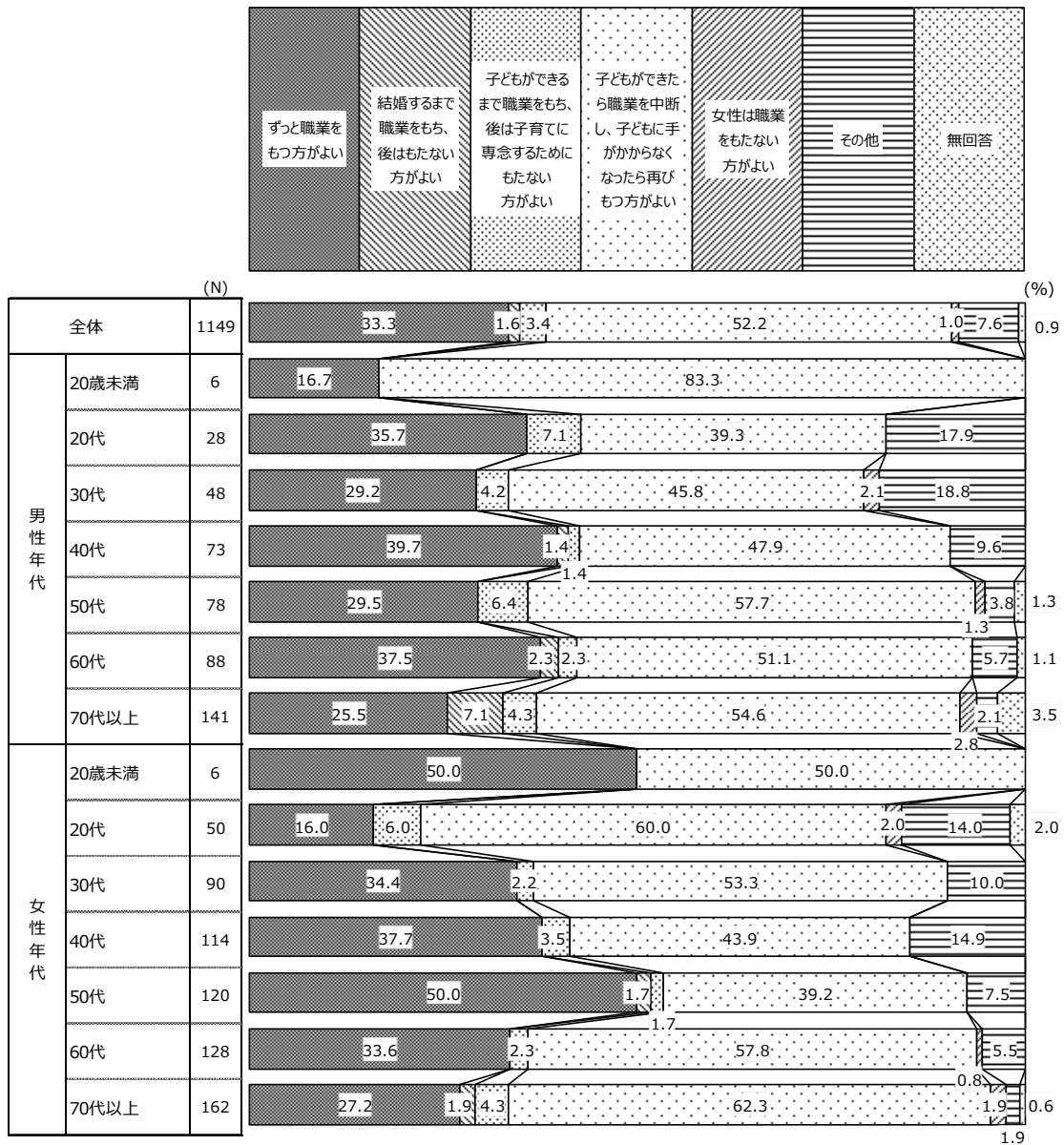


女性が職業をもつことについては、全体では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」が52.2%でもっとも高く、「ずっと職業をもつ方がよい」が33.3%で続き、これらを合わせた85.5%が“女性は結婚、出産後も職業を持つ方がよい”と考えていることになる。

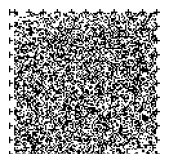
性別でみても同様に、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」が男性52.1%、女性52.7%、「ずっと職業をもつ方がよい」は男性31.5%、女性34.7%となっている。



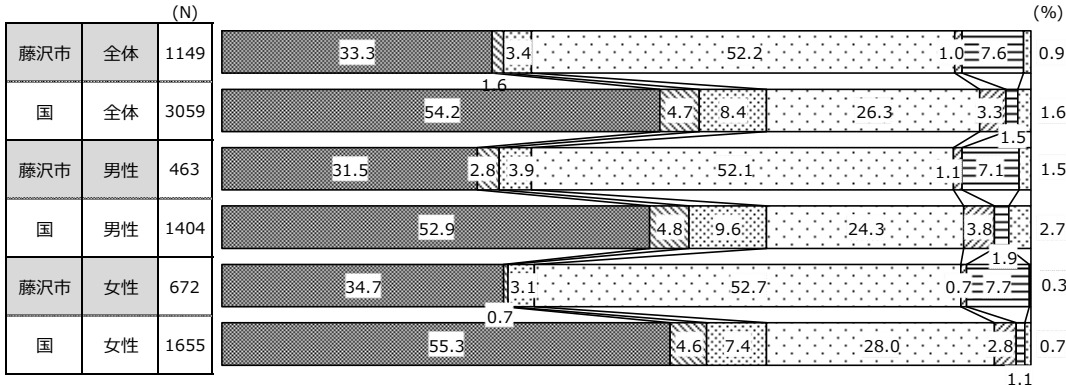
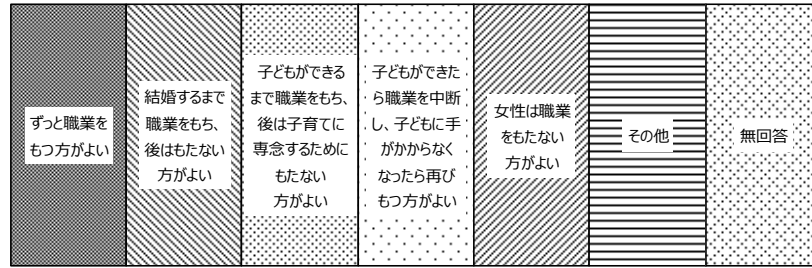
■性別・年代別



性別・年代別では、男性50代、女性20代・60代・70代以上で「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がからなくなったら再びもつ方がよい」が6割前後と高く、女性50代で「ずっと職業をもつ方がよい」が5割と高くなっている。

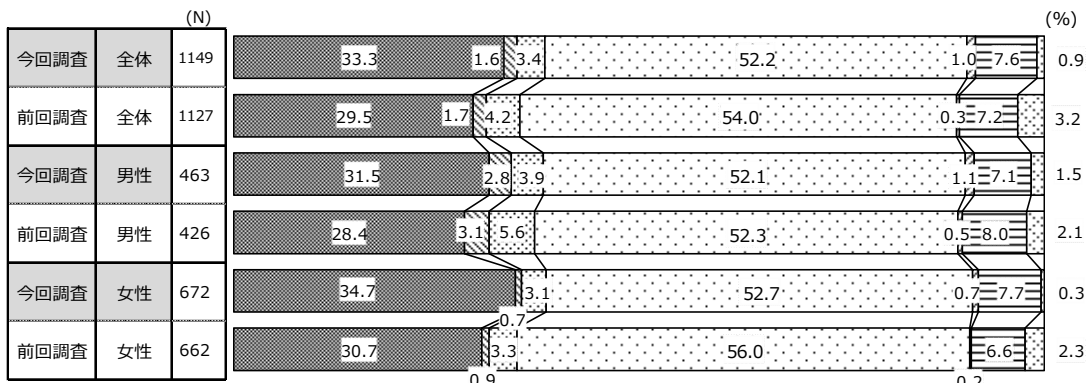
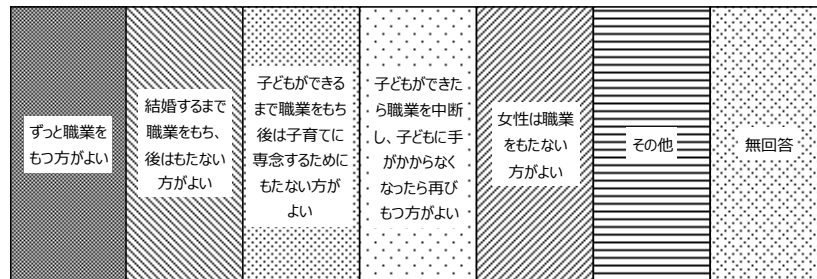


●国との比較

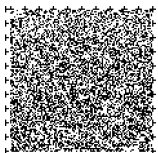


国の調査と比較すると、「ずっと職業をもつ方がよい」（就労継続型）は藤沢市が20.9ポイント低く、「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」（再就職型）は25.9ポイント藤沢市が高くなっており、藤沢市は「再就職型」の意識が高いことがわかる。これは男性・女性に共通した傾向といえる。

◎経年比較

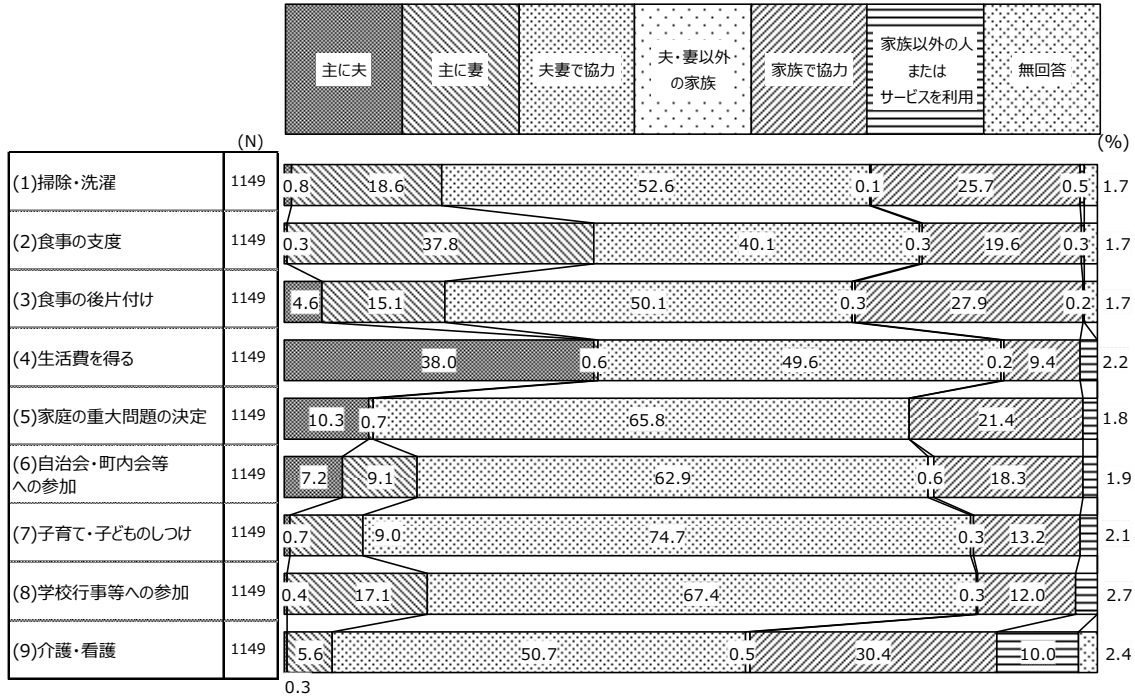


前回調査と比較すると、「ずっと職業をもつ方がよい」が全体3.8ポイント、男性3.1ポイント、女性4.0ポイントそれぞれ増加している。「子どもができたから職業を中断し、子どもに手がかからなくなったら再びもつ方がよい」は全体1.8ポイント、男性0.2ポイント、女性3.3ポイント減少している。



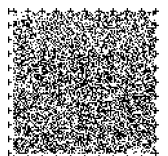
(3) 家庭における役割分担についての考え

Q6 あなたは、次にあげる家庭における役割は、どのように行うのが望ましいと思いますか。
 ((1)～(9)の各項目につき○は1つ)

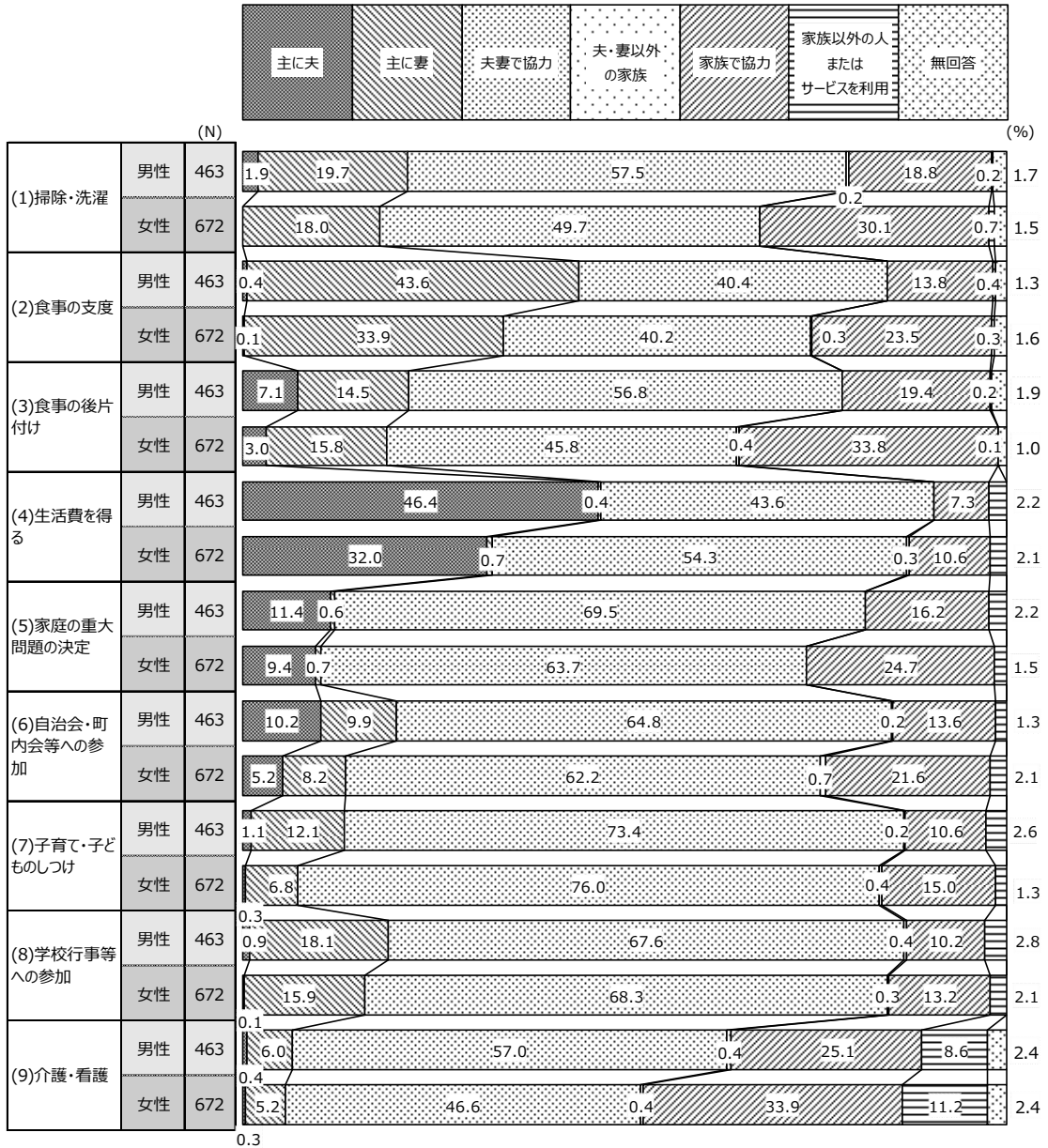


家庭における役割分担については、「夫妻で協力」は『子育て・子どものしつけ』(74.7%)、『学校行事への参加』(67.4%)、『家庭の重大問題の決定』(65.8%)で7割前後にのぼる。また、『自治会・町内会等への参加』(62.9%)、『掃除・洗濯』(52.6%)、『介護・看護』(50.7%)、『食事の後片付け』(50.1%)でも5～6割を占めており、全般的に「夫妻で協力」しあって家庭生活を営むことが望ましいという意識がうかがえる。

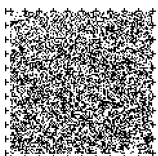
そうした中で、『食事の支度』は「主に妻」が37.8%で、『生活費を得る』は「主に夫」が38.0%と偏りがみられる。



■性別

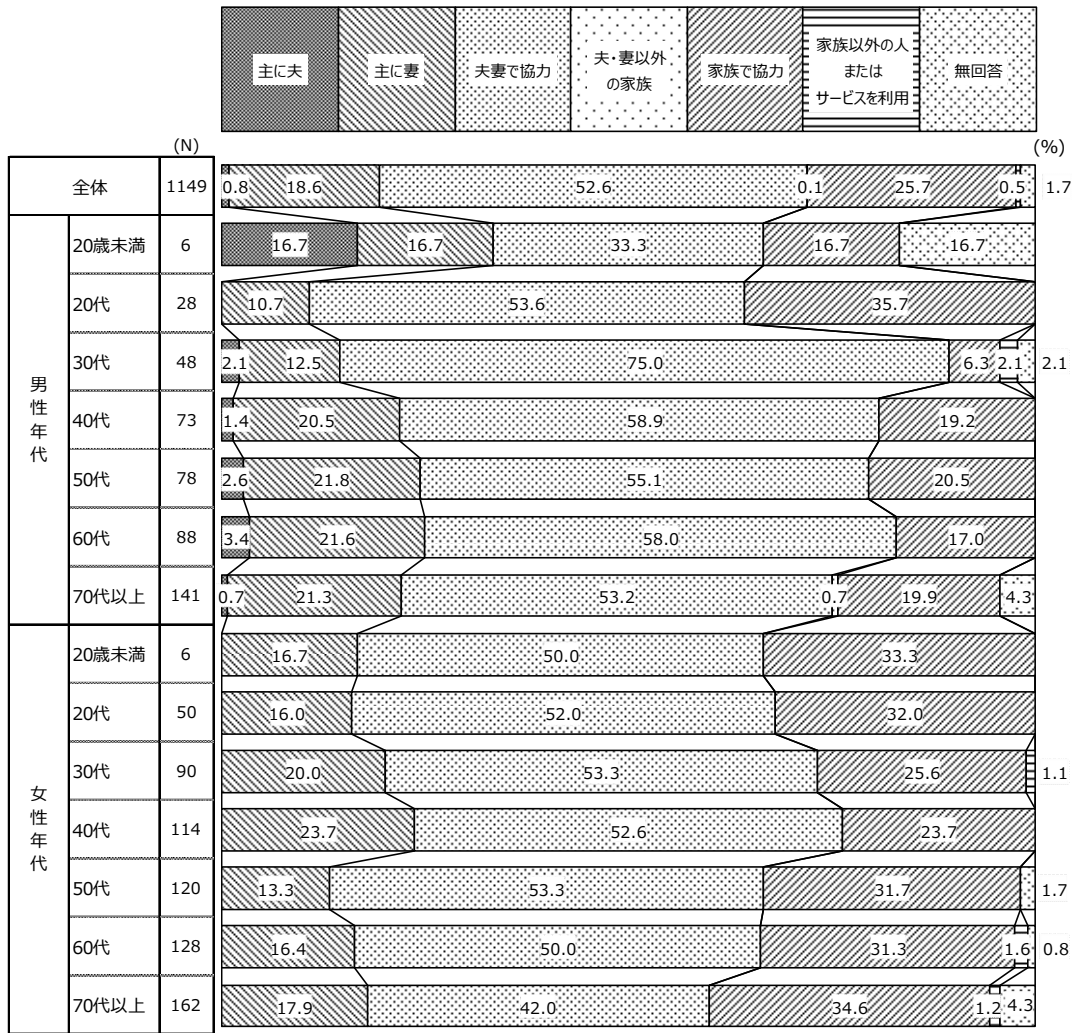


性別でみると、『家庭の重大問題の決定』『自治会・町内会等への参加』『子育て・子どものしつけ』『学校行事への参加』は特に差はみられない。しかし、『掃除・洗濯』『食事の後片付け』『介護・看護』では男性で「夫妻で協力」の割合が高く、女性で「家族で協力」の割合が高くなっている。また、『食事の支度』では男性で「主に妻」の割合が高く、女性で「家族で協力」の割合が高い。さらに『生活費を得る』では、男性で「主に夫」の割合が高く、女性で「夫妻で協力」の割合が高くなっている。

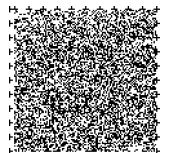


■性別・年代別

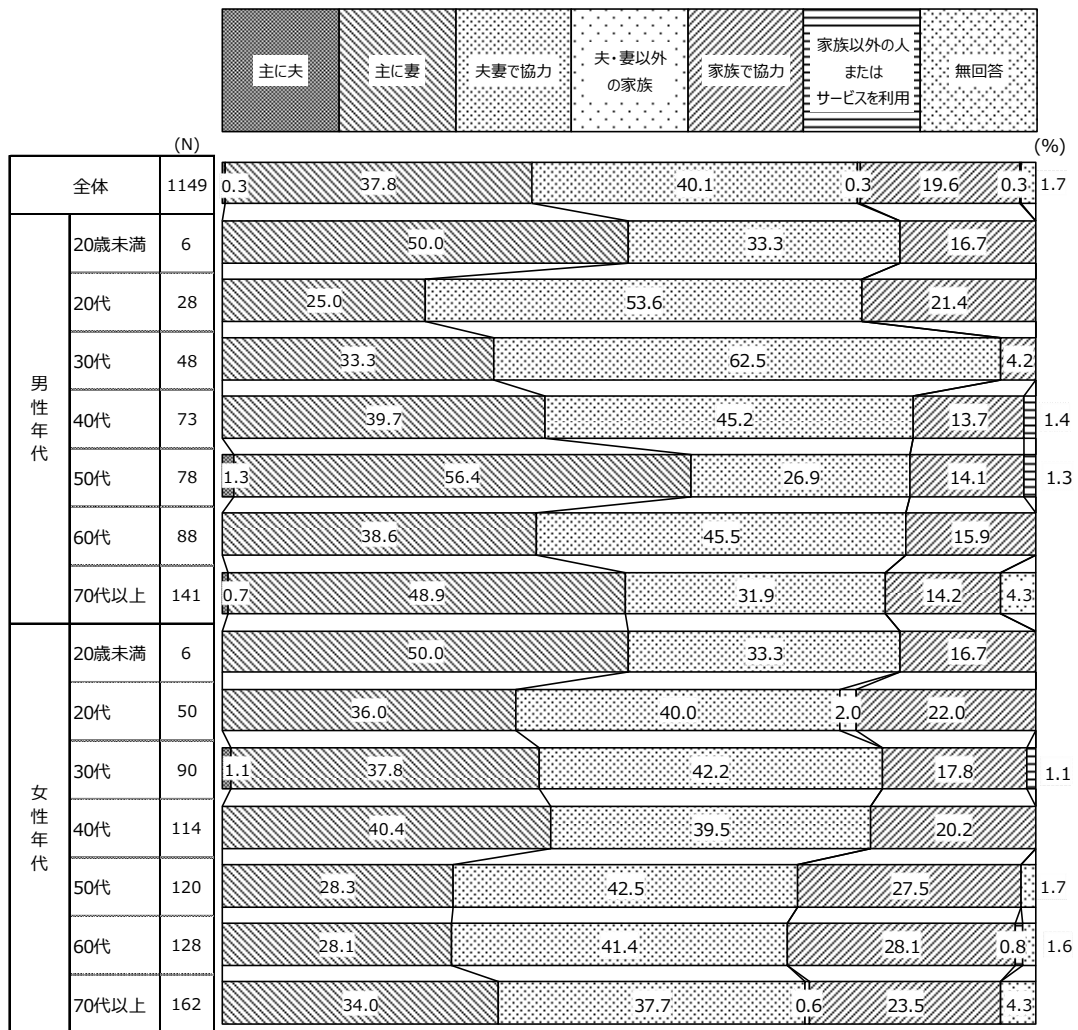
B(3)-(1)掃除・洗濯



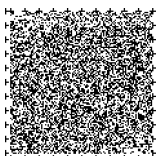
『掃除・洗濯』を性別・年代別で見ると、男性30代で「夫妻で協力」が75.0%ともっとも高く、男性20代、女性70代以上で「家族で協力」が35.7%、34.6%と高くなっている。



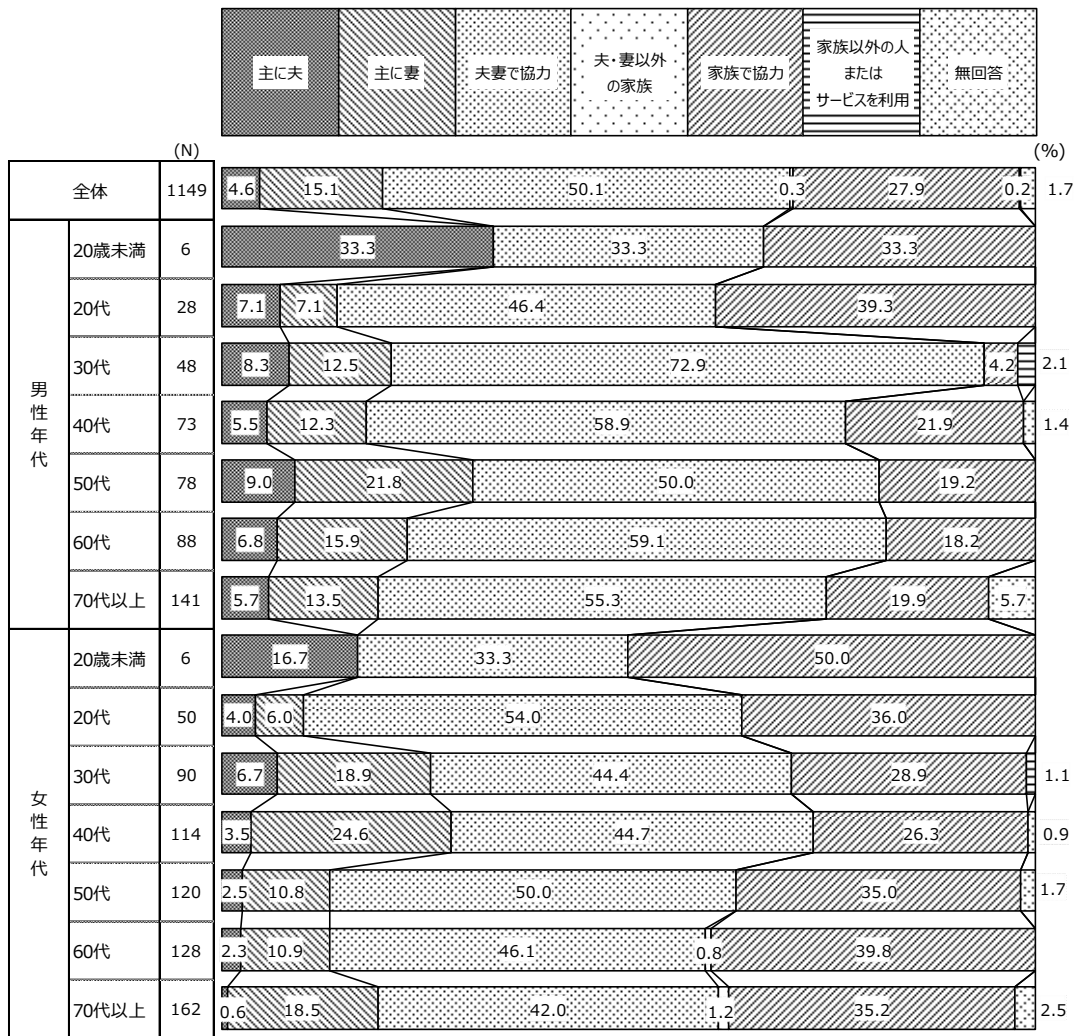
B (3)-(2) 食事の支度



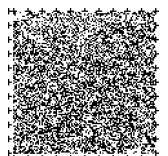
『食事の支度』を性別・年代別で見ると、男性50代で「主に妻」が56.4%と高く、男性20代・30代で「夫妻で協力」が53.6%、62.5%、女性50代・60代で「家族で協力」が27.5%、28.1%と高くなっている。



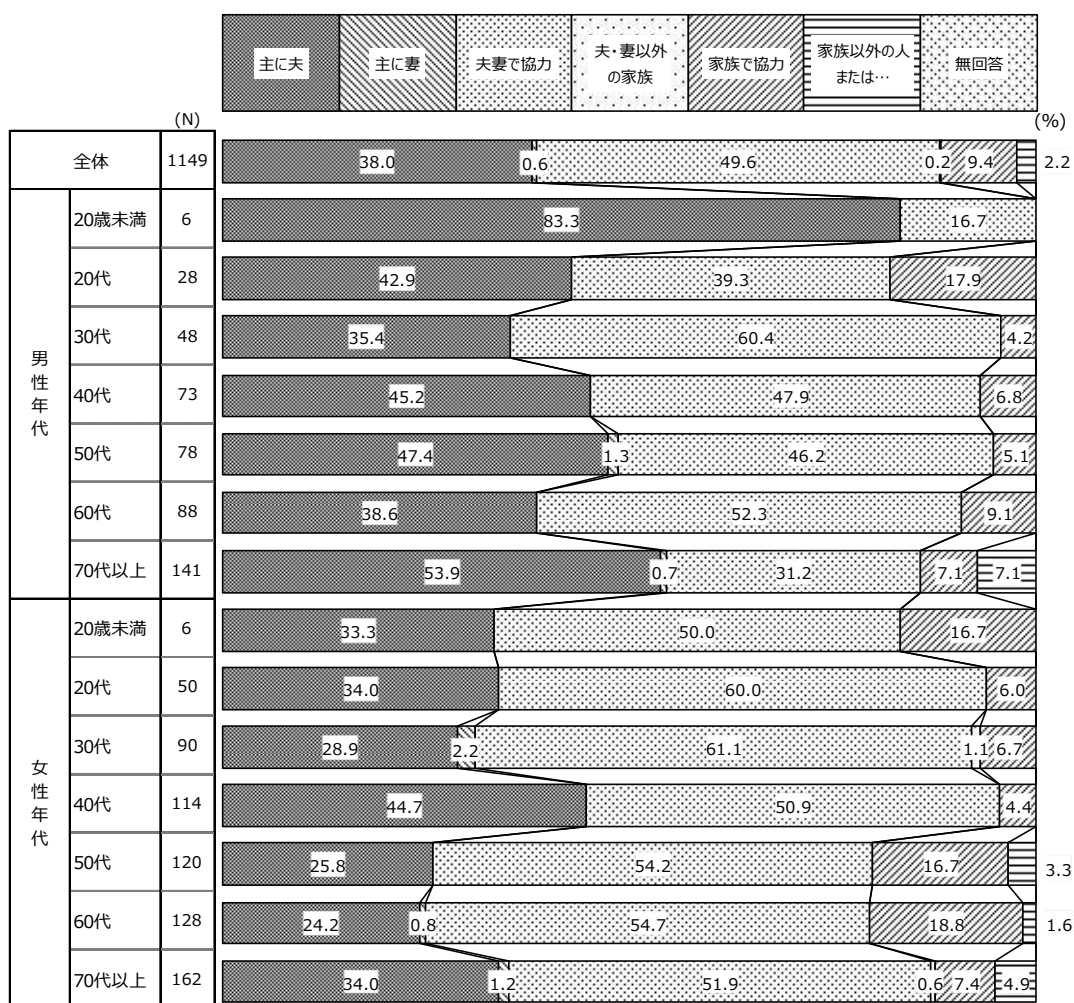
B (3)-(3) 食事の後片付け



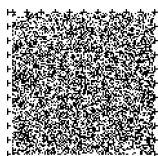
『食事の後片付け』を性別・年代別で見ると、男性50代、女性40代で「主に妻」が21.8%、24.6%と高く、男性30代～70代以上で「夫妻で協力」が5割以上となり、特に30代では72.9%ともっとも高くなっている。男性20代、女性20代・50代～70代以上で「家族で協力」が35.0～39.8%と高くなっている。



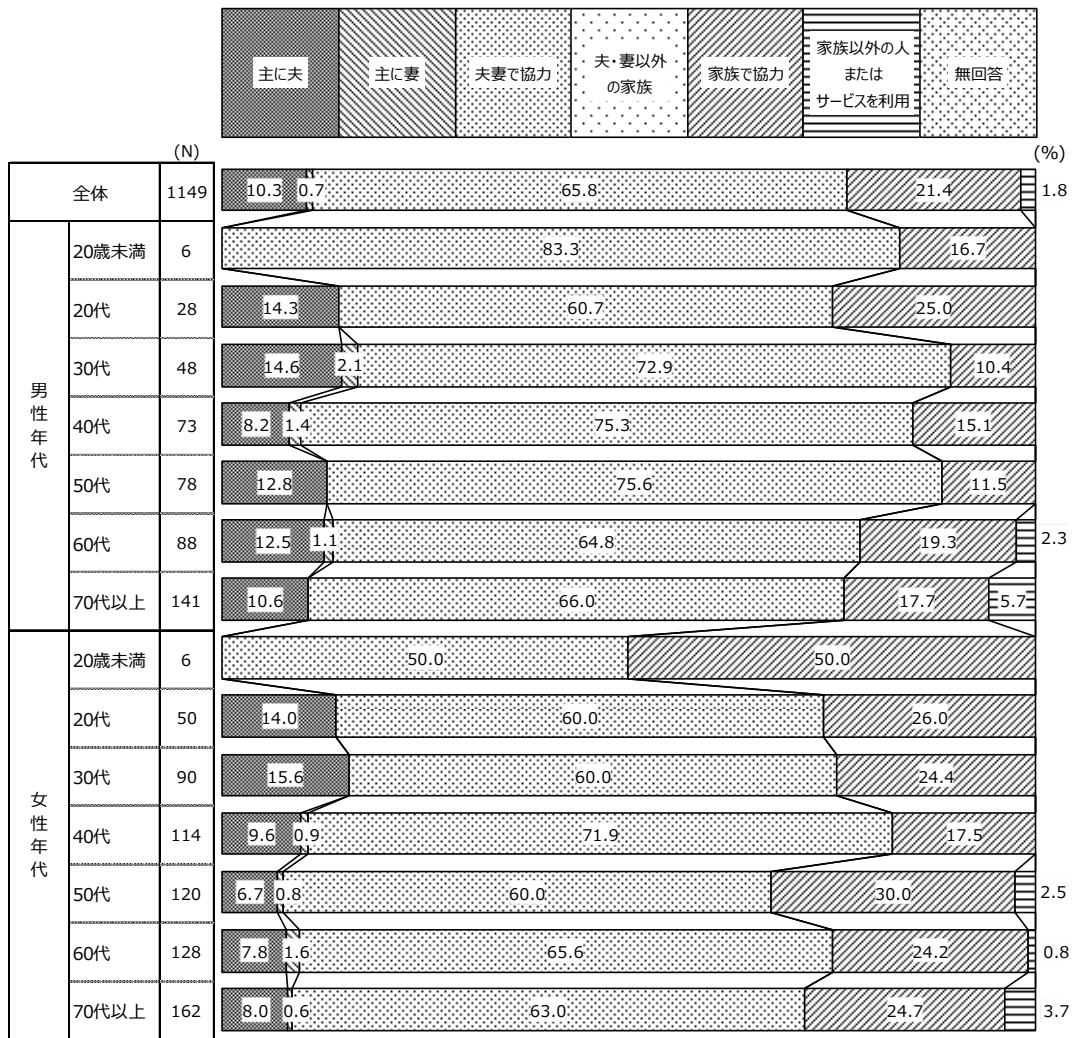
B (3)-(4) 生活費を得る



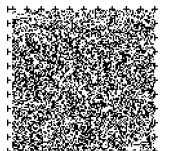
『生活費を得る』を性別・年代別でみると、男性40代・50代・70代以上、女性40代で「主に夫」が44.7～53.9%と高く、男性30代、女性20代・30代で「夫妻で協力」が60.0～61.1%と高くなっている。



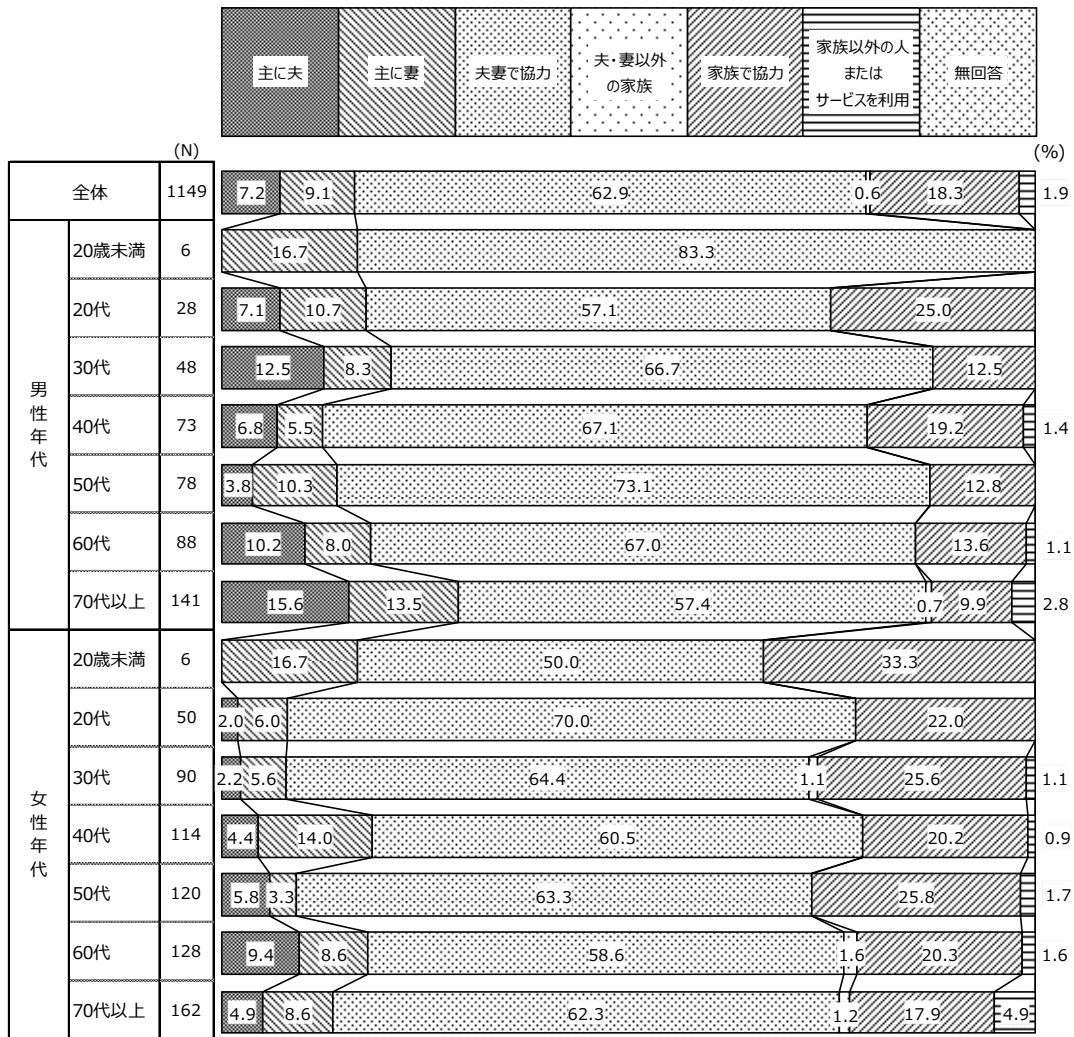
B (3)-(5) 家庭の重大問題の決定



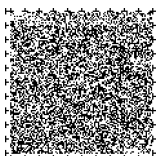
『家庭の重大問題の決定』を性別・年代別で見ると、男性30代～50代、女性40代では「夫妻で協力」が7割以上と高く、女性50代で「家族で協力」が30.0%と高くなっている。



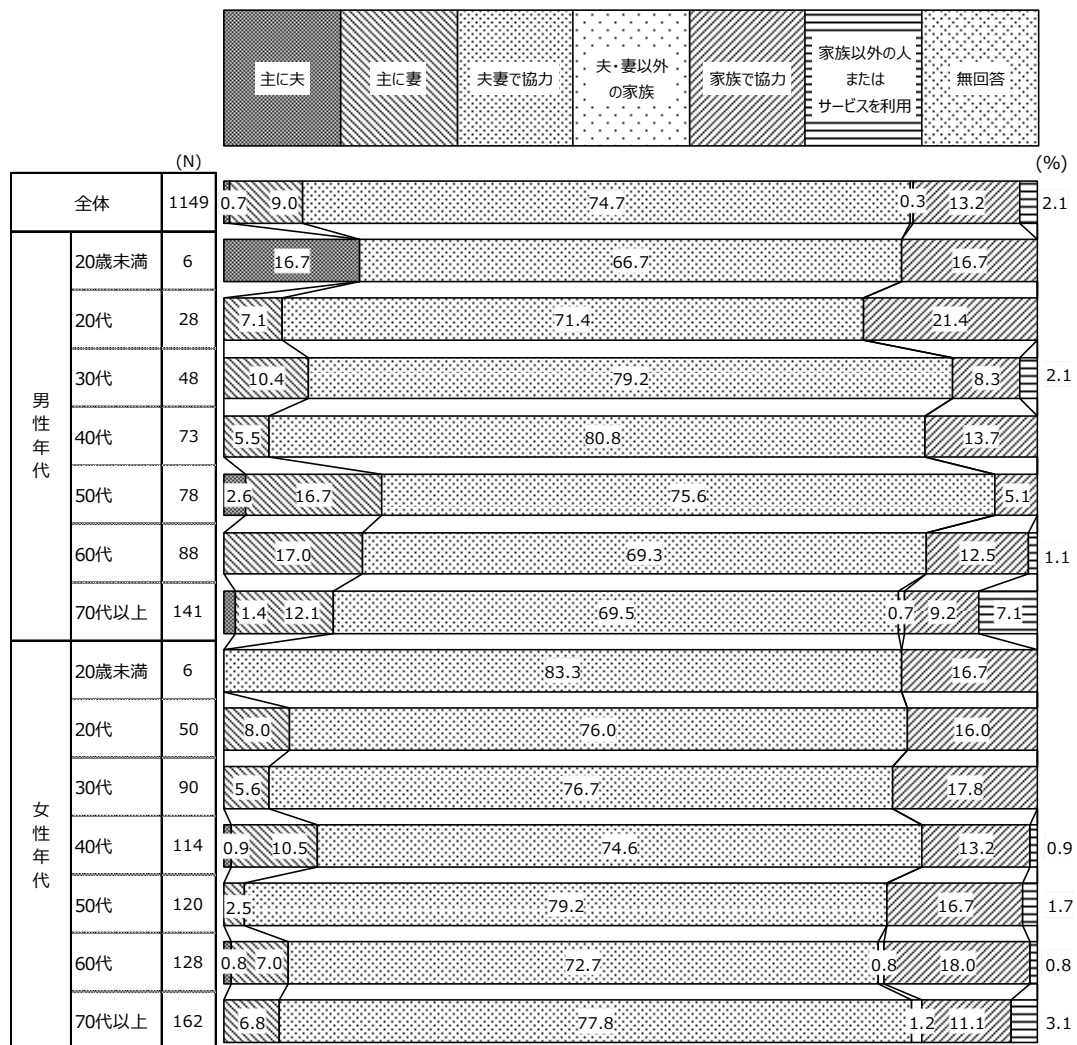
B (3)-(6) 自治会・町内会等への参加



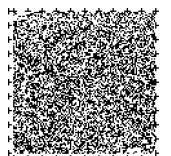
『自治会・町内会等への参加』を性別・年代別で見ると、男性50代、女性20代で「夫妻で協力」が73.1%、70.0%と高くなっている。



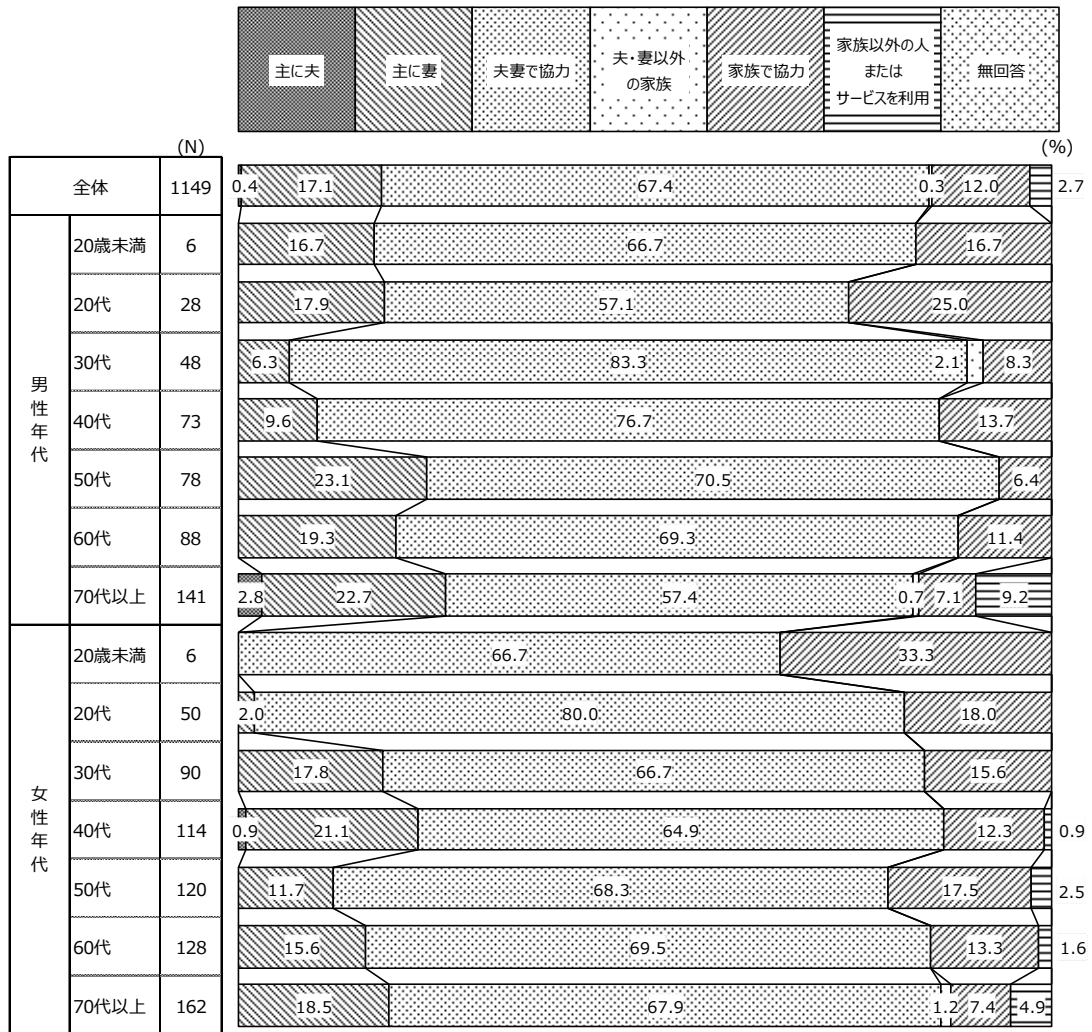
B (3)-(7)子育て・子どものしつけ



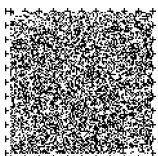
『子育て・子どものしつけ』を性別・年代別で見ると、性別を問わず「夫婦で協力」がすべての年代で高く、特に男性30代・40代、女性50代で79.2～80.8%と高くなっている。



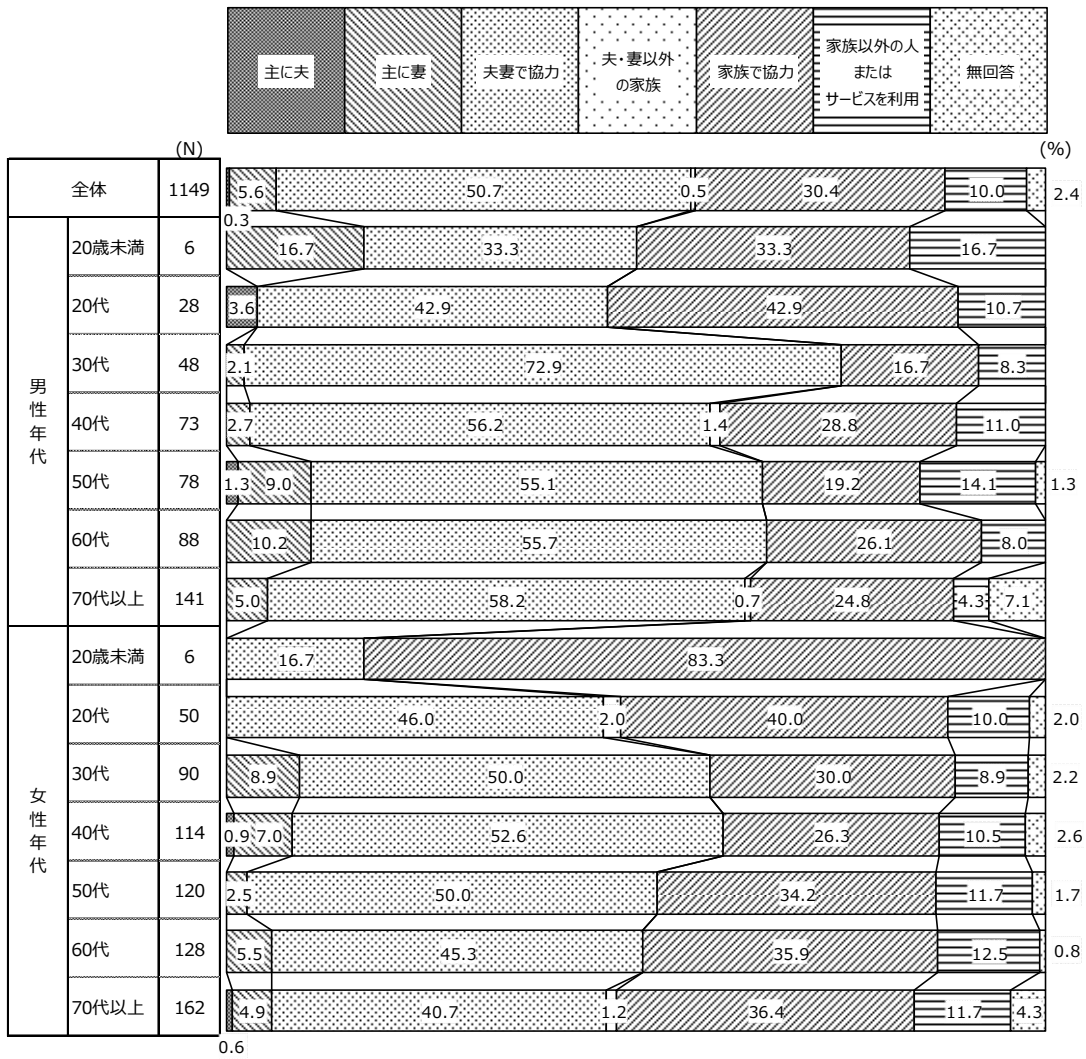
B (3)-(8) 学校行事等への参加



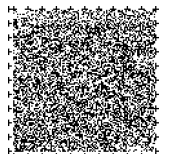
『学校行事等への参加』を性別・年代別で見ると、男性30代・40代、女性20代で「夫妻で協力」が76.7～83.3%と高く、男性20代で「家族で協力」が25.0%と高くなっている。



B (3)-(9) 介護・看護



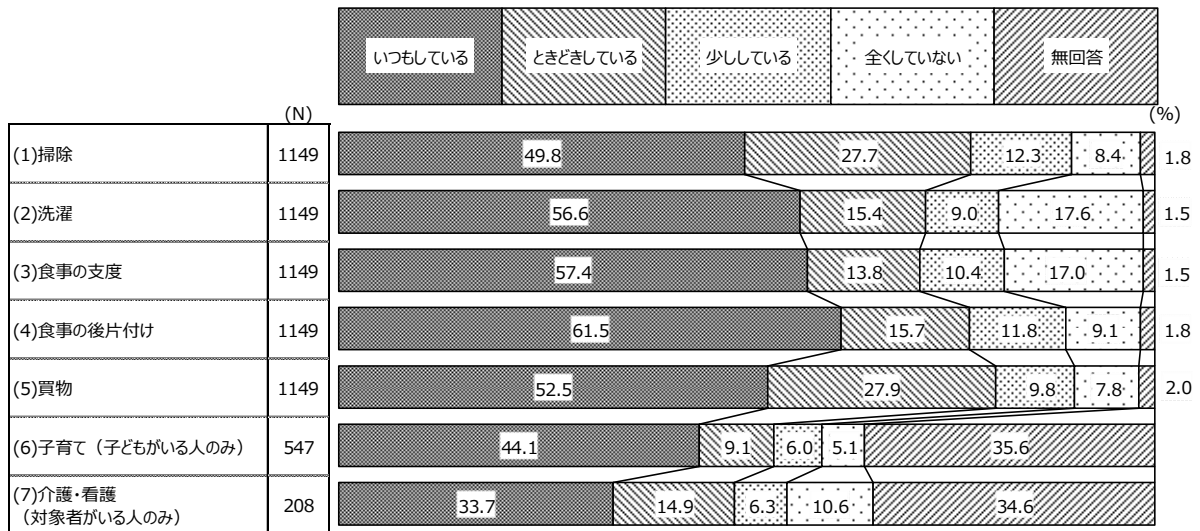
『介護・看護』を性別・年代別で見ると、男性30代で「夫妻で協力」が72.9%と高く、男性20代、女性20代で「家族で協力」が42.9%、40.0%と高くなっている。



(4) 家庭における役割分担の状況

Q7 あなたは、次にあげる家庭における役割にどの程度たずさわっていますか。((1)~(7)の各項目につき○は1つ)

また、「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」と答えた方は、普段1日に何分ぐらいしているかお答えください。日により異なる方は、週平均をお答えください。



家庭の役割にたずさわっている割合(「いつもしている」「ときどきしている」「少ししている」の合計)は、『買物』(90.2%)、『掃除』(89.8%)、『食事の後片付け』(89.0%)が9割前後、『食事の支度』(81.6%)、『洗濯』(81.0%)が8割強、『子育て』が59.2%、『介護・看護』が54.9%となっている。

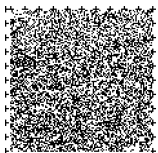
■ 平均時間数
<全体>

	掃除	洗濯	食事の支度	食事の後片付け	買物	子育て (子どもがいる人のみ)	介護・看護 (対象者がいる人のみ)
全体	33.4	39.7	65.7	29.9	48.2	443.0	200.9
男性	23.3	25.7	35.0	19.0	40.3	142.5	164.7
女性	39.2	45.5	78.2	35.8	52.2	599.9	220.9

<就学前の子どもがいる人>

(該当者は、P18 (6) 一番下の子どもの年齢区分で、「就学前」を回答した人)

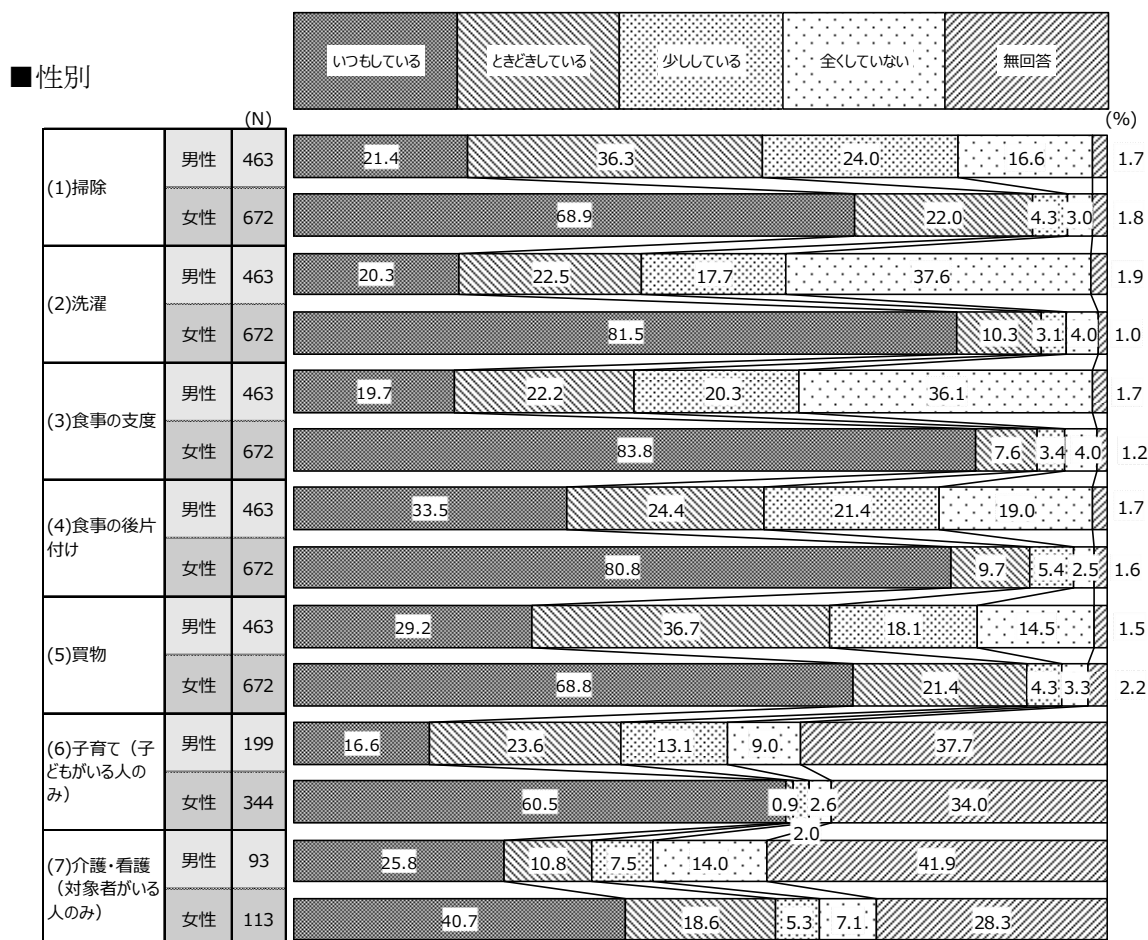
	掃除	洗濯	食事の支度	食事の後片付け	買物	子育て (子どもがいる人のみ)	介護・看護 (対象者がいる人のみ)
全体	29.6	30.9	68.8	26.8	46.1	717.9	30.0
男性	14.0	16.3	26.4	13.8	35.5	171.3	-
女性	36.0	35.4	83.5	31.9	49.9	950.7	30.0



家庭の役割にたずさわっている平均時間は、『子育て』が443.0分、『介護・看護』が200.9分と特に長く、以下、『食事の支度』(65.7分)、『買物』(48.2分)、『洗濯』(39.7分)、『掃除』(33.4分)、『食事の後片付け』(29.9分)の順となっている。

平均時間を性別でみると、すべての項目で女性がたずさわっている時間が男性を上回っているが、『食事の支度』(女性78.2分、男性35.0分)、『子育て』(女性599.9分、男性142.5分)、『介護・看護』(女性220.9分、男性164.7分)などが男性を大きく上回っている。

就学前の子どもがいる人の家庭の役割にたずさわっている平均時間を性別でみると、『食事の支度』は女性83.5分、男性26.4分、『子育て』は女性950.7分、男性171.3分など女性がたずさわっている時間が男性を大きく上回っている。



家庭の役割にたずさわっている割合を性別でみると、どの役割でも女性が男性を上回っている。男性では『洗濯』『食事の支度』で、「全くしていない」が4割弱と高くなっている。

